

目 次

I.	教 育 課 程 に つ い て	2
	カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・アセスメントポリシー	
II.	単 位	6
III.	成 績 評 価 基 準	6
IV.	卒業の要件に関する単位内訳表	7
V.	コ ー ス の 概 要	8
VI.	服飾学部服飾学科カリキュラム表	15
VII.	履 修 の 方 法	23
VIII.	教 職 課 程 に つ い て	27
IX.	学 芸 員 課 程 に つ い て	33
X.	授 業 計 画	41
XI.	ゼ ミ ナ ー ル	67

本学の教育課程は、学則第 2 条の目的にそって、構成されています。

教育課程（学則第25条）に述べられていますが、授業科目の履修方法を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成してあります。

授業科目は、その内容により、専門科目、教養科目と教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の博物館に関する科目に区分してあります。

本履修便覧 15 頁の服飾学部服飾学科カリキュラム表に授業科目の種類、単位数、授業の方法、履修方法、資格取得と履修との関係、配当年次、週時間数等について詳細を掲載してありますので参照してください。

カリキュラムポリシー（教育方針）

本学の教育の使命と目的を効果的に実現するための教育組織として、1 年次では共通の初年次教育課程と 2、3、4 年次で 6 つのコースに分かれた専門教育課程を設けています。初年次教育課程では、教養科目によって一般的教養を養い、服飾関係科目によって芸術性・技術力、ビジネス基礎力を育成します。その基礎の上に立って、専門教育課程で、創造力をもった専門職業人を養成することを目指しています。

教養科目は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・総合・国際関係・外国語の科目を多数開講し、外国語は 8 単位以上、それ以外の科目で 26 単位以上の履修を要求しています。また 1 年次生には初年次科目の「学習基礎」を必修として、大学で 4 年間学ぶためのスキルを修得させています。外国語については 3、4 年次での受講も可能にし、服飾業界での必要性に対応しています。

初年次教育課程では、服飾関係科目の共通必修科目と専門選択科目を設けています。共通必修科目の中核科目としてファッション・フィールドリサーチ、服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通・商業入門、ファッションビジネス概論があり、これらを全員に履修を義務付け、服飾造形に関する基礎的な技術とファッションビジネスに関する基礎的な知識を全学生が共通に修得することとしています。これが本学の初年次教育課程の特徴です。

専門教育課程では、モードテクノロジー系の 4 つのコースとファッションビジネス系の 2 つのコースに分かれて、各コースごとに独自の必修科目（35 単位～38 単位）を設定しています。ファッションビジネス系の 2 年次では、2 つのコースの専門基礎必修科目は共通していますが、各コースの教育目的と目標が異なり、基礎以外はそれぞれの専門に特化した授業が展開されます。

各コースの教育目的と目標を達成するために必要な必修科目をコースごとに 17 科目ないし 20 科目設定しています。初年次教育課程の科目、専門教育課程での選択科目と合わせて専門教育課程でコースの必修科目を履修することによって、各コースの目指す専門職業分野の人材育成を可能とする方針のもとにカリキュラムを編成しています。

本学の履修科目の単位内訳は次の表の通りです。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学では下記の表に掲げる専門課程のコース別の教育目的に従って、目標の欄に掲げている服飾関係の専門的職業で活躍できる人材の育成を目標としています。

入学時にモードテクノロジー系のコースを志望するクラスとファッションビジネス系のコースを志望するクラスに分かれて1年間初年次教育課程の教育を受けますが、その間に服飾造形系とビジネス系の基礎科目で17単位を両系共通の必修科目として履修します。これによって、ビジネスの基礎を知るモードテクノロジーの専門家と服飾造形の基礎を知るファッションビジネスの専門家の素地を培うこととしています。さらに初年次で系ごとに共通の専門基礎必修科目2単位と2年次で専門教育課程のコースに進学した後、モードテクノロジー系の各コースでは10単位、ファッションビジネス系の各コースでは7単位の共通の専門基礎必修科目を履修します。

2年次から4年次までの専門教育課程では、コースごとに専門必修科目35単位ないし38単位の履修を求めています。この専門必修科目は、ファッションビジネス系の2年次では、2つのコースの科目は共通していますが、これ以外は各コース間で同一の必修科目はありません。

さらにコースごとに23単位から29単位の専門選択科目の履修を求めています。以上の専門基礎科目と専門科目を合わせて90単位を履修することでコース別の教育目的と目標を達成することとしています。

また教養科目34単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをめざしています。

教養科目34単位と専門科目90単位の**合計124単位**を修得することで卒業を認定し、学士（服飾）の学位を授与することとしています。

専門教育課程 コース別教育目的と目標

コース名	目的	目標
①モードクリエイションコース	服飾造形表現に必要とされる知識・技術・感性を修得し、イメージを的確に造形として表現・判断できる能力の育成を目的とする。	ファッション産業の現場で活躍できるデザイナー、パタンナー、縫製技術士などの人材育成を目標とする。
②インダストリアルパターンコース	ファッションの色や素材、人体におけるサイズ等を最も良い状態へ改良しながら個々の人体に対応して、パターン開発できる能力の育成を目的とする。	3D計測器を使用した人体計測およびアパレルCADによる個々の人体に対応したパターン開発が提案できるパタンナーの人材の育成を目標とする。
③テキスタイルデザインコース	服飾の原材料や素材を理解し、表現技法の修得によってテキスタイルデザイン、設計をもとに自由にテキスタイル作品の制作ができる能力、またニットにおいてはニットCADシステムによるニット作品の制作ができる能力を育成することを目的とする。	創造的なテキスタイルデザイン・設計を通してイメージ通りに表現したテキスタイル作品を制作できる能力によって、ファッション業界において織物デザイナー、ニットデザイナー、プリントデザイナーとして活躍できる人材の育成を目標とする。
④ファッションプロダクトデザインコース	ファッションプロダクトの分野でアイデアを創出する豊かな発想力並びにそのアイデアを具体的な形にする造形力と実際に制作する技術力の育成を目的とする。	バッグ、帽子、アクセサリ、シューズ等ファッション関連製品のデザインなど、プロダクトデザイナーとして広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする。
⑤ファッションビジネス・マネジメントコース	ファッションビジネスにかかわる企画創作能力・企画作成技術力・プレゼンテーション能力の育成を目的とする。	ファッションビジネスを企画・提案でき、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けたマーチャンダイザー等のCCO（チーフクリエイティブオフィサー）となる人材の育成を目標とする。
⑥ファッションビジネス・流通イノベーションコース	SPA（製造小売業）、オムニチャネル（統合販売）など変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と課題解決力などの能力の育成を目的とする。	店舗販売とネット販売の併合した事業運営などファッション流通イノベーションを推進するCMO（チーフマーケティングオフィサー）となる人材の育成を目標とする。

杉野服飾大学の学修（教育）成果測定の指標

1. 初年次教育課程の学修成果測定

- ・初年次教育課程の学修成果は、入学者数と入学後2年目に専門教育課程への進級者比率を指標として行う。
- ・服飾学科はテクノロジー分野とビジネス分野ごとの指標によって行う。
- ・表現学科は5つの専攻によって指標を行う。
- ・初年次前期での中退率を服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科ごとに行う。

2. 服飾学科の各コース、服飾表現学科、服飾文化学科の期待される能力の水準

各学科（服飾学科は各コース、服飾表現学科は各専攻）の期待される能力の水準（学修成果の指標）は、卒業制作、卒業論文にもとめられる能力であり、その具体的な要件は、4年次の卒業制作又は卒業論文の科目が要求している達成度である。

3. 各授業科目の目標達成度（学修成果）

各授業科目の目標達成度はシラバスに記載した到達目標によって測定する。測定の指標は、履修学生の作品提出やプレゼン、小テスト、期末試験、シラバスに記載した準備及び復習学修時間の履行状況（学修行動調査によって別途検証）、授業評価アンケート調査とコメントへの対応とする。

シラバスに記載した到達目標については、服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の必修科目において期待される能力水準（学修成果測定の指標）との関係が適切か、準備学修時間と合わせて別途シラバス作成時に審査する。

4. 卒業者数による学修成果測定

服飾学部服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科全体としての卒業者数による学習成果の測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次4年前入学者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率
- 服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科ごとの卒業者数による学修成果の測定は次の指標によって行う。
- ・卒業年次の3年前の服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の2年次進級者数又は服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科2年次への進級者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

5. 就職者数による学修成果測定

服飾学部全体としての成果測定は次の指標によって行う。

- ・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率
 - ・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率
- * 専門的職業は服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科での学修成果目標による職種を言う。

Ⅱ. 単 位

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より単位数を計算するものとします。

平常授業は、前期15週、後期15週、年間30週を原則とします。

時間割表の1時限は正味45分ですがこれを1時間と計算します。従って1コマ（2時限続き）は90分としています。

1. 講義と演習

15時間から30時間までの範囲で大学で定めた時間の授業を1単位とします。

2. 実験、実習及び実技

30時間から45時間までの範囲で大学が定めた時間の授業を1単位とします。

上記は学則第28条の（単位）の条項にそって、授業時間との関連を解説したものです。

Ⅲ. 成績評価基準

学習の評価については学則第32条に述べられていますが、成績評価基準は以下の通りです。

区分	評価	成績評価基準	評価内容
合格	S	100～90点	特に優れた成績
	A	89～80点	優れた成績
	B	79～70点	妥当と認められる成績
	C	69～60点	合格と認められる最低限の成績
	合	—	合格と認められる成績
不合格	D	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していない

◆GPA(グレートポイント・アベレージ)制度

履修した科目の成績の平均を数値で表したものです。成績評価をS→4、A→3、B→2、C→1、D→0と点数に置換えて算出するのがGPAです。

$$GPA = (\text{科目の点数} \times \text{科目の単位数}) \text{の総和} \div \text{履修した科目の総単位数}$$

IV.履修科目単位内訳表

(大学2020年度生)

		修得単位数					
		モードテクノロジー系				ファッションビジネス系	
共通専門基礎必修科目	1年次	17					
	2年次	7					
系別専門基礎必修科目	1年次	4				4	
	2年次	3				0	
コース別専門必修科目		モード 37	インダストリアル 37	テキスタイル 38	プロダクト 35	マネジメント 39	イノベーション 37
	2年次	14	16	12	12	13	
	3年次	14	14	17	14	16	16
	4年次	9	7	9	9	10	8
専門選択科目		22	22	21	24	23	25
専門科目合計		90単位					
教養科目	初年次 キャリア	必修	10				
	一般 体育 国際関係	選択	16				
	外国語	選択必修	8				
教養科目合計		34単位					
総合計		124単位					

※令和3(2021)年度改定

■【進級条件】

各学年開講必修科目は、原則全て修得すること。

1年次の共通必修(服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通商業入門、ファッションビジネス概論、ファッション・フィールド・リサーチ、衣服材料学、ファッション画Ⅰ・Ⅱ、ドローイングⅠ)17単位とその他の科目で36単位以上修得しない場合には、2年次のコースに原則進めない。

■【卒業制作・論文履修条件】

1・2年次の必修科目を修得していない場合には、原則コースの専門応用・【卒業制作・論文】を履修できない。

V. コースの概要

モードクリエーションコース

世界に通用するクリエイターを目指し、服飾造形表現に必要とされる知識・技術そして豊かな感性をはぐくみ、イメージしたデザインを服飾造形作品として表現する力と、作品を正しく評価・判断する力、自分の作品をプレゼンする能力を育てていきます。

このコースでは、各自の様々なイメージを的確にとらえ、服飾造形作品として具現化できる能力を修得するために、デザイン考案とデザイン表現テクニック、ドレーピングやパターンメイキング、服飾造形テクニック等を学び、それらを総合して作品を制作する授業を中心としています。特にモードデザインやアパレルCADなど、アパレル業界で活かせる授業によって編成されています。各自の学習の成果はポートフォリオや産学コラボレーション、各種コンテストへの参加で確認することができます。

卒業後は、クリエイター、デザイナー、パターンメーカー、モデリスト、縫製技術者などを目指します。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉 ファッション史 服飾デザイン概論	〈実験・実習〉 ドレーピング&パターンメイキング I ドレーピング&パターンメイキング II
〈実験・実習〉 モードクリエーション I モードクリエーション II	モードデザイン I 装飾技法
3 年次	
〈演習〉 アパレル CAD I アパレル CAD II	〈実験・実習〉 ドレーピング&パターンメイキング III ドレーピング&パターンメイキング IV
〈実験・実習〉 モードクリエーション III モードクリエーション IV	モードデザイン II モードデザイン III
4 年次	
〈演習〉 モードデザイン IV	〈実験・実習〉 卒業制作 I (モード) 卒業制作 II (モード)

V. コースの概要

インダストリアルパターンコース

インダストリアルパターンコースは、衣服を理解するために人体を学び、パターンを素材に連動させる役目であるパタンナー（モデリスト）を育成するコースです。3次元計測システムおよび着装シミュレーションを使って、人体における動きを論理的に分析し、快適な衣服設計を行います。工業パターンの制作をCADで行い、1/2大で作品を制作し、様々な素材に適合するパターンを修得します。人体設計、体型分類、サイズ設定など一連の技術を身につけた上で、現代ファッションに即した色彩やコンセプトを考案し、イメージしたデザインを的確に表現できるように学習するコースです。卒業制作はファッションショー形式で行い、各自のコレクションを発表します。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 人体工学設計技術Ⅰ 人体工学設計技術Ⅱ	〈実験・実習〉 インダストリアルパターンⅠ インダストリアルパターンⅡ
〈演習〉 感性産業デザインⅠ 感性産業デザインⅡ	CGデザインⅠ CGデザインⅡ
3年次	
〈演習〉 CAD&3D演習Ⅰ CAD&3D演習Ⅱ 感性産業CADⅠ 感性産業CADⅡ	〈実験・実習〉 インダストリアルパターンⅢ インダストリアルパターンⅣ CGデザインⅢ CGデザインⅣ
4年次	
〈実験・実習〉 卒業制作Ⅰ（インダストリアルパターン） 卒業制作Ⅱ（インダストリアルパターン）	

V. コースの概要

テキスタイルデザインコース

本コースでは繊維を知ることから始まり、糸や布を使ってオリジナルテキスタイル作品を制作します。その過程でデザイン考案、設計理論、制作プロセス、技術を身につけ制作を軸とした科目設定によって、テキスタイルエキスパートの育成を目指しています。具体的には織物、ニット、染色、フェルティングなどの表現技法を学び、制作を通して学修する教育システムを実施しています。

ファッションデザインが同じでも素材が異なれば多様なファッションを提案することも可能です。素材の基礎をしっかりと学び、アパレルテキスタイルの提案、アート作品の提案など、自由な発想で「テキスタイルデザイン・作品」が提案できる人材の育成をしていきます。

目標・・・テキスタイルデザイナー、プリントデザイナー、ニットデザイナー、テキスタイルプランナーの育成

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉 素材設計論 I 素材設計論 II	〈実験・実習〉 テキスタイルデザイン I テキスタイルデザイン II ダイイングテクニック I ダイイングテクニック II
3 年次	
〈演習〉 ニッティング I ニッティング II プリントデザイン演習 I プリントデザイン演習 II 画像表現演習 I 画像表現演習 II	〈実験・実習〉 テキスタイルデザイン III テキスタイルデザイン IV ダイイングテクニック III ダイイングテクニック IV 素材分析実験
4 年次	
〈演習〉 テキスタイルデザイン V	〈実験・実習〉 卒業制作 I (テキスタイル) 卒業制作 II (テキスタイル)

V. コースの概要

ファッションプロダクトデザインコース

ファッションプロダクトデザインコースでは、現代の社会的なニーズに対応し、ファッションプロダクト製品のデザイン、商品企画、トレンド情報発信、制作に関わる人材の育成を目指すカリキュラム編成となっています。2年次ではファッションプロダクトデザインの基礎課程と位置づけています。デザインの発想法、描画による表現訓練、製図、デザインモデルの制作技法、素材の特性と制作技術、アイデアを具体的な形にする造形能力を訓練する科目の設定になっています。その他リサーチの目的と分析結果の検証など、本コース3年間の教育課程を通じ核となる学修を行います。

卒業制作では、2・3年次に学んだ事を更に発展させ、作品制作を行います。デザインの対象をより幅広く設定しアイデアを産み出す発想力を鍛え、機能性、装飾性、トレンド性など様々な要素を基に製品化を目指し実物の制作を行う科目の設定となっています。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 ファッションプロダクトデザイン論	〈演習〉 アクセサリーデザイン
〈演習〉 ファッションプロダクトデザイン I ファッションプロダクトデザイン II デザインプロセス	〈実験・実習〉 プロダクトデザイン演習 I デジタルデザインワーク I デジタルデザインワーク II
3年次	
〈演習〉 ファッションプロダクトデザイン III ファッションプロダクトデザイン IV プロダクトデザイン演習 II	〈実験・実習〉 ファッションプロダクトデザインゼミ マテリアル実習 I (金属) マテリアル実習 II (金属) デジタルデザインワーク III
4年次	
〈実験・実習〉 卒業制作 I (プロダクト) 卒業制作 II (プロダクト)	

V. コースの概要

ファッションビジネス・マネジメントコース

このコースの目標は、ファッションビジネスにおける国際的なファッションリーダーの養成です。そこで必要なのは、1) ファッションデザインのセンス、創造力、感性、企画・思考技術、2) 高度知識、コンピューターによる情報収集・発信・分析・判断能力、3) ファッションビジネス・マネジメント能力です。これら3つの観点から、高い「志」を持ち、「夢と希望」に向かってファッション界に貢献できる人材の養成を目指しています。以上3つのコンセプトを融合してファッション業界において新しい価値観を持った考え方がこのコースのスタンスです。

ファッションビジネス・マネジメントコースでは、ファッションビジネスの企画・提案を行い、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けた人材を育成することを目的としたカリキュラム編成となっています。まず2年次では講義を中心に、専門的な基礎知識を学びます。次に3年次では、ファッション・アパレルメーカーでのファッションブランド戦略の現況、商品開発、生産、小売業、店頭販売、それらを展開したグローバル・ビジネスなどを講義形式で学び、さらに特徴的な授業形態として、産学コラボレーションをあげることができます。学生達がグループでバーチャルカンパニーを設立し、自社ブランドを立ち上げ、マーケティング活動、企画立案、新製品（商品）提案、デザイン開発、生産、販売までの一気通貫を企画・提案することを学習します。4年次においては、3年次に学んだことをアカデミックに探究し、企業研究を課題①として調査、分析、考察し、さらに学士論文を課題②として、卒業課題としています。それらの過程において、理論（講義）と実践（ファッションの現場で実学を重視した）、企業間との連携（産学連携によるプロジェクトやバイヤーでの体感実習）による、両面で実務型（実践力）の育成ができるカリキュラム編成になっています。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 消費者行動論 I 企業会計入門 グローバルマネジメント特論 I ファッションマーケティング論	〈演習〉 ビジネスプレゼンテーション技法 ファッションエディトリアル I プレゼミ(マネジメント)
3年次	
〈講義〉 ブランド・マネジメント論 P.R, マネジメント論 新製品(商品)開発論 生産管理論 バイヤーの実践学	〈講義〉 リテールマーチャンダイジング 〈演習〉 「産学連携」プロジェクト演習 I 「産学連携」プロジェクト演習 II
4年次	
〈講義〉 グローバルマネジメント特論 II 店舗開発マネジメント論 ファッションMD評価システム	〈演習〉 卒業論文 I (マネジメント) 卒業論文 II (マネジメント)

V. コースの概要

ファッションビジネス・流通イノベーションコース

このコースは商学・マーケティングの理論を中心に、新しいファッションビジネスのあり方を学びます。イノベーションとは革新の意味です。ファッション産業はとりわけ変化の激しい業界で、SPA（製造小売業）業態への転換の時代を経て、スマートフォンなどで買い物をするネットビジネスが伸びてきました。今後はリアル店舗とネット販売の融合を考えた「オムニチャネル」が重要になってきます。そうした変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と、デジタルマーケティングの知識を使った能力の育成を目標とします。

ユビキタス社会（ネットでいつでも、どこにも、誰とでもつながる）の到来、グローバル化、企業のIoT化、AI（人工知能）の導入などで「働き方」「職種」も大きく変わってきました。コース専門科目では写真の編集やネットビジネスで対応できる文章表現などの実際を学んだ後、メディアやSNS、ファッションアプリなどに特化したファッション流通関連企業への就職、あるいは仲間同士や個人でネットショップを開くことを目指します。

ファッションビジネスでこれから発展するであろう「ファッション・テック」（ファッション×テクノロジー）の実践を体験する授業も行います。新しいテクノロジーを活用した販売方法を考えながら、どのようにしたらファッション製品やサービスが消費者の期待に沿えるのか、売れるのか、心理的作用や行動原則を考え、さらに顧客満足の考え方、顧客とのエンゲージメントを築くことを中心に学ぶゼミ方式が特徴です。最終目標は卒業論文の執筆ですが、コースで学ぶ新しいファッション・マーケティングを理解することは、社会においてもコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の基本となります。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉 消費者行動論 I 企業会計入門 グローバルマネジメント特論 I ファッションマーケティング論	〈演習〉 ビジネスプレゼンテーション技法 ファッションエディトリアル I プレゼミ(イノベーション)
3 年次	
〈講義〉 消費者行動論 II 現代流通論 流通イノベーション特講(オムニ、ダイヤモンド) グローバルマーケティング特講 フィールドリサーチ実践論(国内、海外)	〈演習〉 ファッションエディトリアル II 流通イノベーションゼミ I 流通イノベーションゼミ II
4 年次	
〈講義〉 顧客関係論 ファッションテック論	〈演習〉 卒業論文 I (イノベーション) 卒業論文 II (イノベーション)

VI. 服飾学部服飾学科カリキュラム表

(2020年度生)大-1

授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考	
	講 義	演 習	実 習	卒業を目的とするもの							選 自	教 育 課 程	職 員 課 程		学 芸 課 程	前 期		後 期
				コース別必修														
				モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ア ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス	フ ・ マ シ ン メ ジ ネ ス	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス								
服飾造形基礎Ⅰ	3		○											1	6			
服飾造形基礎Ⅱ	3		○											1	6			
流通・商業入門	2		○											1	2			
ファッションビジネス概論	2		○											1	2			
ファッション・フィールド・リサーチ	1		○											1	2又	は2		
衣服材料学	2		○											1	2又	は2		
西洋服飾文化史	2		○											1	2又	は2		
ファッション画Ⅰ	1		○											1	2			
ファッション画Ⅱ	1		○											1	2			
色彩演習	2			○	○	○	○			○				1	2又	は2		
ドローイングⅠa	2			○	○	○	○							1	4又	は4		
ドローイングⅠb	2							○	○					1	4又	は4		
経営学入門	2							○	○	○				1	2又	は2		
日本服飾文化史	2		○											2	2又	は2		
アパレル素材論	2		○											2	2又	は2		
色材演習	1		○											2	2又	は2		
マーケティング・データサイエンス論	2		○											2	2又	は2		
現代ファッション論	2			○	○	○	○							2	2又	は2		
CADパターンメイキング	1			○	○	○	○							2	2又	は2		
計	20	15	0															
専門科目(服飾関係)必修科目については、テクノロジー系については29単位、ファッションビジネス系については26単位を修得すること 1年次で必修科目を含む36単位以上取得しないと2年次のコース科目は履修出来ません。																		
モードクリエーションⅠ		3	○											2	9			
モードクリエーションⅡ		3	○											2	9			
ドレーピング&パターンメイキングⅠ		1	○											2	3			
ドレーピング&パターンメイキングⅡ		1	○											2	3			
モードデザインⅠ		1	○											2	3			
服飾デザイン概論	2		○											2	2			
装飾技法		1	○											2	3			
ファッション史	2		○							○				2	2又	は2		
モードクリエーションⅢ		4	○											3	12			
モードクリエーションⅣ		4	○											3	12			
ドレーピング&パターンメイキングⅢ		1	○											3	3			
ドレーピング&パターンメイキングⅣ		1	○											3	3			
モードデザインⅡ		1	○											3	3			
モードデザインⅢ		1	○											3	3			
アパレルCADⅠ	1		○											3	2			
アパレルCADⅡ	1		○											3	2			
モードデザインⅣ	1		○											4	2			
卒業制作Ⅰ(モード)		4	○											4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		
卒業制作Ⅱ(モード)		4	○											4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		
インダストリアルパターンⅠ		2		○										2	6			
インダストリアルパターンⅡ		2		○										2	6			
感性産業デザインⅠ		3		○										2	6			
感性産業デザインⅡ		3		○										2	6			
CGデザインⅠ		1		○										2	3			
CGデザインⅡ		1		○										2	3			
人体工学設計技術Ⅰ	2			○										2	2			
人体工学設計技術Ⅱ	2			○										2	2			
インダストリアルパターンⅢ		2		○										3	6			
インダストリアルパターンⅣ		2		○										3	6			
CGデザインⅢ		1		○										3	3			
CGデザインⅣ		1		○										3	3			
CAD&3D演習Ⅰ		1		○										3	2			
CAD&3D演習Ⅱ		1		○										3	2			
感性産業CADⅠ		3		○										3	6			
感性産業CADⅡ		3		○										3	6			
卒業制作Ⅰ(インダストリアル)		3		○										4	9	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		
卒業制作Ⅱ(インダストリアル)		4		○										4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可		

専 門 科 目 係	授業科目名	単位数		履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考	
		講 義	演 習	実 験	共 通 必 修	卒業を目的とするもの					選 自	資格取得を 目的と するもの	教 職 課 程		学 員 課 程	前 期		後 期
						コース別必修												
						モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ア ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ア マ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト								
	テキスタイルデザイン I			2				○							2	6		
	テキスタイルデザイン II			2				○							2	6		
	ダイニングテクニク I			2				○							2	6		
	ダイニングテクニク II			2				○							2	6		
	素材設計論 I	2						○							2	2		
	素材設計論 II	2						○							2	2		
	テキスタイルデザイン III			2				○							3	6		
	テキスタイルデザイン IV			2				○							3	6		
	ダイニングテクニク III			2				○							3	6		
	ダイニングテクニク IV			2				○							3	6		
	ニッティング I	2						○							3	4		
	ニッティング II	2						○							3	4		
	プリントデザイン演習 I		1					○							3	2		
	プリントデザイン演習 II		1					○							3	2		
	素材分析実験			1				○							3	3		
	画像表現演習 I		1					○							3	2		
	画像表現演習 II		1					○							3	2		
	テキスタイルデザイン V		1					○							4	2		
	卒業制作 I (テキスタイル)			4				○							4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
	卒業制作 II (テキスタイル)			4				○							4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
	ファッションプロダクトデザイン論	2						○							2	2		
	ファッションプロダクトデザイン I		2					○							2	4		
	ファッションプロダクトデザイン II		2					○							2	4		
	デザインプロセス		1					○							2	2		
	アクセサリデザイン		1					○							2	2		
	デジタルデザインワーク I			1				○							2	3		
	デジタルデザインワーク II			1				○							2	3		
	プロダクトデザイン演習 I		2					○							2	4		
	ファッションプロダクトデザイン III		4					○							3	8		
	ファッションプロダクトデザイン IV		4					○							3	8		
	ファッションプロダクトデザインゼミ			1				○							3	3		
	マテリアル実習 I (金属)			1				○							3	3		
	マテリアル実習 II (金属)			1				○							3	3		
	プロダクトデザイン演習 II		2					○							3	4		
	デジタルデザインワーク III			1				○							3	3		
	卒業制作 I (プロダクト)			4				○							4	12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
	卒業制作 II (プロダクト)			5				○							4	15	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
	消費者行動論 I	2							○	○					2	2		
	ビジネスプレゼンテーション技法		1						○	○					2	2		
	企業会計入門	2							○	○	○				2	2		
	グローバルマネジメント特論 I	2							○	○					2	2		
	ファッションエディトリアル I		2						○	○					2	4		
	ファッションマーケティング論	2							○	○					2	2		
	プレゼミ(マネジメント)		2						○						2	2	2	
	プレゼミ(イノベーション)		2							○					2	2	2	
	ブランド・マネジメント論	2							(○)						3	2		
	トレンド分析とディレクション制作	2							(○)	(○)	○				3	2		
	コミュニケーション論	2									○				3	2	2021年度履修方法変更	
	P.R.マネジメント論	2							○						3	2	2021年度新規開講	
	新製品(商品)開発論	2							○						3	2		
	生産管理論	2							(○)						3	2		
	バイヤーの実践学	2							○	(○)	○				3	2		
	リテールマーチャンダイジング	2							○		○				3	2		
	「産学連携」プロジェクト演習 I		2						○						3	4		
	「産学連携」プロジェクト演習 II		2						○						3	4		
	グローバル・マネジメント特論 II	2							○						4	2		
	ファッション・バイヤー論	2							○						4	2	2021年度廃止	
	店舗開発マネジメント論	2							○						4	2	2021年度新規開講	
	ファッションMD評価システム	2							○						4	2		
	卒業論文 I (マネジメント)		2						○						4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
	卒業論文 II (マネジメント)		2						○						4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	

専服	授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考	
		講 義	演 習	実 験 実 習	卒業を目的とするもの											前 期	後 期		
					共 通 必 修	コース別必修					選 自	職 業 課 程	学 員 課 程	学 務 課 程					
						モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト									フ ・ ア 流 通 シ ョ ン ベ ー ジ ネ ス ト
消費行動論Ⅱ	2															3	2		
現代流通論	2															3	2		
ファッションエディトリアルⅡ		2														3	4		
流通イノベーション特講(オムニ、ダイヤモンド)	2															3	2		
流通イノベーションゼミⅠ		2														3	4		
グローバルマーケティング特講	2															3		2	
フィールドリサーチ実践論(国内、海外)	2															3		2	
流通イノベーションゼミⅡ		2														3		4	
顧客関係論	2															4	2		
ファッションテック論	2															4	2		
卒業論文Ⅰ(イノベーション)		2														4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
卒業論文Ⅱ(イノベーション)		2														4	4	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可	
専門コース必修合計	60	69	89																
1, 2年次の必修科目とコース必修科目を取得していない場合は、各コースの卒業制作は履修できません																			
専門科目(服飾関係)のコース別必修科目についてはコースのいずれかを選んで上記の○印の単位を修得すること。 コース別必修科目を当該コース以外の学生が選択科目として履修した場合、修得単位は卒業の要件に算入する。																			
専服	服飾造形応用		2			○										1		4	
	人体工学論	2										○				1	2		
	現代デザイン論	2										○		○	1	2又	は2		
	ファッション販売論	2										○			1	2又	は2		
	流行論	2										○			1	2又	は2		
	画像設計演習		1									○			2	2又	は2		
	ドローイングⅡ			1								○			2	3又	は3	原則として「ドローイングⅠ」修得者のみ履修可	
	写真表現演習		1									○			2	2又	は2		
	立体造形演習		1									○			2	2又	は2	プログラクコース希望者は履修することが望ましい	
	和服構成論・実習Ⅰ			1								○	○		2	3			
	和服構成論・実習Ⅱ			1								○	○		2	3			
	衣服管理	2										○	○		2	2又	は2		
	染色化学	2										○			2		2		
	繊維ファッション産業構造論	2										○			2	2又	は2		
	映像制作			1								○			2	集中	45h		
	基礎デザイン(平面)		1									○			2	2		プログラクコース希望者は履修することが望ましい	
	基礎デザイン(立体)		1									○			2	2		プログラクコース希望者は履修することが望ましい	
	ファッション販売論上級	2										○			2	2			
	色彩実践学	2										○			2	2			
	服飾手芸(ニットを含む)			1								○	○		3	3又	は3		
	ショップディスプレイ	2										○			3	2又	は2	プログラクコース履修者は履修することが望ましい	
	服飾クラフト			1								○			3	3又	は3		
	インターンシップ			2								○			2	集中90h		開講学年変更	
															3	又は集中	又は集中		
	長期インターンシップ			4								○			2		180h	開講学年変更	
															3	又は180h	又は180h		
	メディアコミュニケーション論	2										○			3	2		2020年度名称変更	
	ファッション画(CG)			1								○			3	3又	は3		
	アパレル産業論特講	2										○			3	2又	は2		
	民族衣裳論	2										○			3	2又	は2		
	染織史	2										○	○		3	2			
	ファッションプレゼンテーション演習		2									○	○		3	4			
	ドレーピング&パターンメイキング(選)			1								○			3	3			
	近代日本モード史	2										○			3	2又	は2		
目係	リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	2										○			3	2			

専門科	授業科目名	単位数		履修方法										配当年	週時間数		備考		
		講義	演習	実習	共通必修	卒業を目的とするもの						資格取得を目的とするもの			前	後			
						コース別必修						選択	自由					教職課程	学芸員課程
						モ	イ	テ	フ	フ	フ								
ド	ン	キ	ア	マ	・														
専門科	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2											○	○	2	2			
	家庭電気・機械	1											○	○	2	1			
	食物学(実践栄養学)	2											○	○	2	2			
	家庭情報処理	1											○	○	2	1			
	食物学(食品学)	2											○	○	3	2			
	住居学(製図を含む)	2											○	○	3	2			
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	2											○	○	3	2			
	食文化論	2												○		3	2		
	食物学(調理実習・実験) I			1										○	○	3	3		
	食物学(調理実習・実験) II			1										○	○	3	3		
専門選択小計		48	9	16															
専門科目小計		128	93	105															
専門科目合計		326																	
専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として21~25単位以上を修得すること。																			
専門科	初年次	2			○											1	2		
	キャリア	文章表現	2			○											1	2又は2	
		情報演習 I (学修ポートフォリオを含む)	1	1		○											1	2	
		情報演習 II (学修ポートフォリオを含む)	1	1		○											1	2	
		キャリアプランニング	2			○											2	2又は2	
	一般	社会人基礎A	2											○			1	2	
		社会人基礎B	2											○			1	2	
		心理学A	2											○			1・2	2	
		心理学B	2											○			1・2	2	
		文学	2											○			1	2又は2	
		日本美術史	2											○		○	1	2又は2	
		西洋美術史	2											○		○	1	2又は2	
		憲法	2											○	○		1・2	2又は2	
		社会福祉学A	2											○			1・2	2	
		社会福祉学B	2											○			1・2	2	
	一般	化学A	2											○			1・2	2	
		化学B	2											○			1・2	2	
		体育A		1										○	○		1	2又は2	
体育B			1										○	○		1・2	2		

授業科目名	単位数			履修方法										配 当 年 次	週時間数		備 考						
	講 義	演 習	実 験 実 習	卒業を目的とするもの											教 職 課 程	学 員 課 程		前 期	後 期				
				共 通 必 修	コース別必修					選 択	自 由	教 職 課 程	学 員 課 程										
					モ ー ド ク リ エ ー シ ョ ン	イ ン ダ ス ト リ ア ル パ タ ー ン	テ キ ス タ イ ル デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン プ ロ ダ ク ト デ ザ イ ン	フ ァ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト											フ ・ マ ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト	フ ・ ア ッ シ ョ ン ビ ジ ネ ス ト		
言語と服飾文化	2														○				3・4	2又	は2		
日本文化・日本事情 I	2															○				1・3	2		外国人留学生は履修のこと 2022年名称変更
日本文化・日本事情 II	2															○				1・3		2	外国人留学生は履修のこと 2022年新規開講
英語(総合)A	2															○				2	2		
英語(総合)B	2															○				2		2	
ワールド・カルチャーA	2															○				2	2		
ワールド・カルチャーB	2															○				2		2	
国際関係 実用英語 A	2															○				2	2		
実用英語 B	2															○				2		2	
ファッション英語 A	2															○				2	2		
ファッション英語 B	2															○				2		2	
フランス語(総合) A	2															○				2	2		
フランス語(総合) B	2															○				2		2	
ファッションフランス語 A	2															○				2	2		
ファッションフランス語 B	2															○				2		2	
中国語(総合) A	2															○				2	2		
中国語(総合) B	2															○				2		2	
中国語(会話) A	2															○				2	2		
中国語(会話) B	2															○				2		2	
外国語 英語(総合) I	2															○				1	2		
英語(総合) II	2															○				1		2	
基礎英会話 I	2															○				1	2		
基礎英会話 II	2															○				1		2	
フランス語(総合) I	2															○				1	2		
フランス語(総合) II	2															○				1		2	
フランス語(会話) I	2															○				1	2		
フランス語(会話) II	2															○				1		2	
中国語(総合) I	2															○				1	2		
中国語(総合) II	2															○				1		2	
中国語(会話) I	2															○				1	2		
中国語(会話) II	2															○				1		2	
日本語 I	4															○				1・3	4		*外国人留学生は下記の欄を参照
日本語 II	4															○				1・3		4	*外国人留学生は下記の欄を参照
教養科目合計	100	4																					

教養科目については初年次の「学習基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習 I」「情報演習 II」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。

外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれか I～IIまで8単位を修得すること。(母国語を除く)

*外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。
具体的には実力テストの結果に応じて ①「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修する

②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。

但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語 I (4単位)」「日本語 II (4単位)」を履修することができる。

教職課程履修者は教職課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

授業科目名	単位数			履修方法										配当年次	週時間数		備考		
	講義	演習	実習	卒業を目的とするもの											教職課程	学芸員課程		前	後
				共通	コース別必修						選択	自由							
					モード	インダ	テキ	フ	フ	フ									
教師論	2														○	1	2		
教育心理学	2														○	1	2		
教育制度論	2														○	1	2		
教育原理	2														○	2	2		
教育課程論	2														○	2	2		
特別支援教育概論	2														○	2	2		
道徳の指導法	2														○	2	2		
生徒指導論(進路指導を含む)	2														○	2	2		
教科教育法基礎(家庭)	1														○	2	1		
特別活動の指導法	2														○	3	2		
教育方法論	2														○	3	2		
家庭科教育法(基礎)	2														○	3	2		
総合的な学習の時間の指導法	2														○	3	2		
家庭科教育法	2														○	3	2		
教科教育法(家庭)	2	1													○	3	2	模擬授業を含む(集中)	
教育法規	2														(○)	3	2		
教育相談(カウンセリングを含む)	2														○	3	2		
教育実習(事前事後指導を含む)		1	4												○	4	2	他に中・高校で3週間実習	
教職実践演習(中等)		2													○	4	2		
計	33	4	4																
教職課程履修者は、教職に関する科目必修39単位を修得すること。他に7日以上期間、介護・介助・交流等の体験が義務づけられている。																			
博物館に関する科目	生涯学習概論	2													○	1	2		
	博物館概論	2													○	1	2		
	博物館経営論	2													○	2	2		
	博物館資料論	2													○	2	2		
	博物館資料保存論	2													○	2	2		
	博物館展示論	2													○	3	2		
	博物館教育論	2													○	3	2		
	博物館情報・メディア論	2													○	3	2		
	博物館実習			3											○	4	3	3及集中	博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学
	計	16		3															
学芸員課程履修者は、博物館に関する科目19単位を修得すること。																			
カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。																			
1)原則として開講学年順とします。																			
2)個々の履修状況に応じて審議決定します。																			
コース選択要件については、別紙に記載してあります。																			
(注)各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。																			

大学 服飾学科 2020年度生用

科目区分履修方法	科目名	開講	曜日時限	単位	申告	授業コード		
専 門 科 目 服 飾 関 係	モード必修	モードデザインⅣ①	前 木 3・4	1		144301		
		モードデザインⅣ②	前 木 5・6	1		144501		
		卒業制作Ⅰ(モード)①	前 月5~10 水2~7	4		141501		
		卒業制作Ⅰ(モード)②	前 月5~10 水2~7	4		141502		
		卒業制作Ⅱ(モード)①	後 月5~10 水2~7	4		141551		
		卒業制作Ⅱ(モード)②	後 月5~10 水2~7	4		141552		
		卒業制作Ⅰ(インダストリアル)	前 水5~8 金1~5	3		143501		
		卒業制作Ⅱ(インダストリアル)	後 月1~6 金1~6	4		141151		
		テキスタイル	テキスタイルデザインⅤ	前 火 3・4	1		142301	
		卒業制作Ⅰ(テキスタイル)	前 月5~10 金2~7	4		141503		
専 門 科 目 選 択	モード必修	卒業制作Ⅱ(テキスタイル)	後 月5~10 金2~7	4		141553		
		卒業制作Ⅰ(プロダクト)	前 月3~6 火3~6 水3~6	4		141301		
		卒業制作Ⅱ(プロダクト)	後 月7~10 火3~5 水3~6 金5~8	5		141751		
		グローバルマネジメント特論Ⅱ	前 木 5・6	2		144502		
		店舗開発マネジメント論	前 水 3・4	2		143302		
		ファッションMD評価システム	前 火 1・2	2		142101		
		卒業論文Ⅰ(マネジメント)	前 月 5~8	2		141504		
		卒業論文Ⅱ(マネジメント)	後 月 5~8	2		141554		
		イノベーション必修	顧客関係論	前 水 5・6	2		143502	
		ファッションテック論	前 月 3・4	2		141302		
教 養 科 目	国際関係	卒業論文Ⅰ(イノベーション)	前 木 7~10	2		144702		
		卒業論文Ⅱ(イノベーション)	後 火 7~10	2		142751		
		言語と服飾文化①	前 金 1・2	2		145101		
		言語と服飾文化②	後 金 1・2	2		145151		
		教 職	必修	教育実習(事前事後指導を含む)	前 木 3・4	5		144302
				後 木 3・4				
				教職実践演習(中等)	後 木 5・6	2		144551
		学 芸 員	必修	※博物館実習	通年 土 5~10	3		146501
				自主ゼミ	前 火 7・8	—		

※ 印は2分の15週の開講科目です。(8回)

《学年外科目》

区分	開講学年	科目名	開講	曜日時限	単位	授業コード
学 年 外 科 目						

履修単位表

★必ず卒業要件単位を満たしていることを確認してください。単位計算は自己管理です。

区分	卒業要件単位		既修得単位	4年次	合計
	1年	2年			
共通必修	17	7	(17)	(17)	
			(7)	(7)	
系別必修	モードテクノロジー系	4	(4)	(4)	
	ファッションビジネス系	4	(4)	(4)	
専 門 科 目	コース別必修	モード	37	(28)	(9)
		インダストリアル	37	(30)	(7)
		テキスタイル	38	(29)	(9)
		プロダクト	35	(26)	(9)
		マネジメント	39	(29)	(10)
	選択	イノベーション	37	(29)	(8)
		モード	22		
		インダストリアル	22		
		テキスタイル	21		
		プロダクト	24		
教 養 科 目	必修	初年次	2	(2)	(2)
		キャリア	8	(8)	(8)
	選択	一般・体育・国際関係	16		
		必修	外国語	8	(8)
	卒業要件単位		124		
教職		39	(32)	(7)	
学芸員		19	(16)	(3)	
総合計					

学籍番号	
氏名	
コース	
課程	

2月オリ	仮申告	本申告

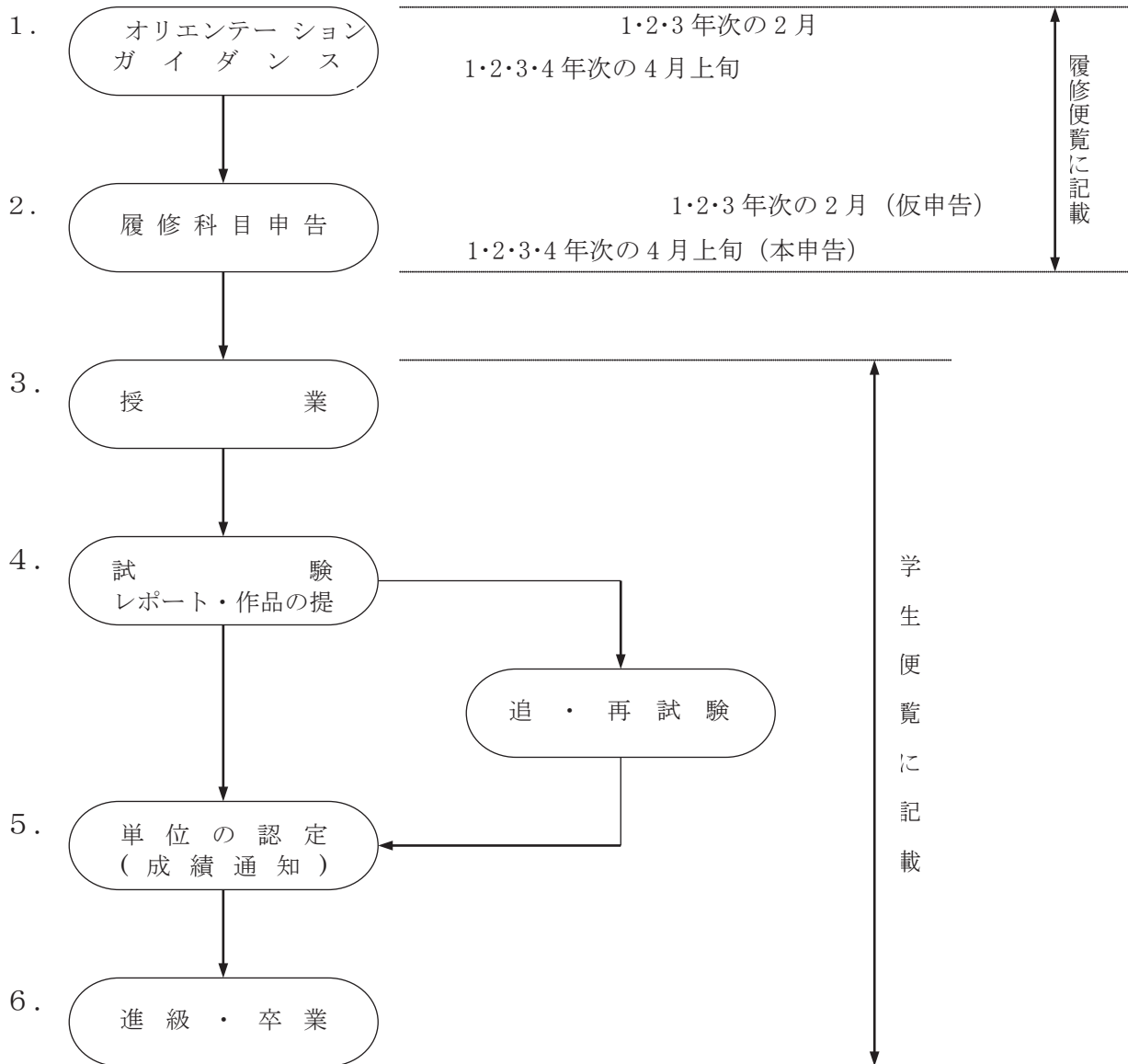
★入力上の注意
 ・申告する科目の欄にプルダウンで○印をいれること。
 ・(前期・後期共に申告すること)
 ・指定クラスがある場合には指示通り申告すること。

★提出前の注意
 ・自身の控えを管理すること。
 ・(個人別時間割を受け取ったら控えと照らし合わせチェックすること)

VII. 履修の方法（履修科目申告から単位認定まで）

大学での学修生活は、自らが履修しようとする授業科目の履修申告からはじまり、学修結果の評価により単位認定がなされることで終わると言ってもいいでしょう。

このパターンが4年間各年度始めに展開されるわけですが、これを図示すると次の通りとなります。以下の順序に従ってその内容・手続きについて解説します。



1. オリエンテーション・ガイダンス

履修ガイダンスやその他学修生活を送る上での必要な事項についてのオリエンテーションが各年度当初の4月に実施されます。(2年次以上は前年度の2月にも次年度オリエンテーションを実施)

履修計画を立てる上で極めて重要なものですので、出席を義務づけております。

2. 履修科目申告

開講科目を履修するには、必ず事前に履修申告をしなければなりません。この履修申告は在学中に各年度開始時(一部の科目に限り後期)に実施されます。この履修申告に際して、学生は事後一ヵ年の学習計画を立て、教務課ではこれにより名簿・成績原簿等を作成します。従って卒業要件単位修得等に重要な手続きですから下記事項を熟読し、あやまりのないようにしてください。

1) 《履修申告にあたっての注意事項》

- ① 同一時限には1科目しか申告できません。すなわち重複受講(申告)は禁止されています。
- ② 申告した科目以外は試験(レポート、作品等の提出を含む)を受験できません。万一受験しても単位は与えられません。
- ③ 一度本申告したものの追加、変更は原則として認められません。
- ④ 申告期限を過ぎたものは受け付けませんので、必ず期日を厳守しなければなりません。
- ⑤ 2・3・4年次は各々過年度開講の科目を申告することができますが、上級年次の開講科目を申告することはできません。

2) 《年間履修単位制限(CAP 制度)》

本学では、各学年で年間に履修できる単位数に上限を定めます。これを「キャップ制度」と言います。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的とします。学生の皆さんは、履修科目として1年間に登録することができる単位数の上限を定めることで、適切にバランスよく授業科目を履修することが出来る制度です。大学は、各学年年間 55 単位です。

※資格関係科目(教職課程、学芸員課程など卒業要件単位に含まれない科目)は履修制限科目から除外されます。

3) 《履修申告の方法》

履修申告は「履修科目申告表」の記入と提出をもって手続きを行います。履修の登録はすべてコンピュータ入力されますので、授業コードで履修申告をしてください。

各々の履修申告の方法は下記の通りです。

- ① 1年次の年度始め
1年次に受講する科目をすべて申告してください。
- ② 1・2・3年次の年度末(次年度の受講予定科目の仮申告)
これまでの履修状況に応じて、次年度における受講科目の申告をしてください。
- ③ 2・3・4年次の年度始め(2年次以降の受講科目の本申告)
新年次における受講科目の申告をしてください。
また、仮申告をした科目の追加・変更のある学生及び再履修科目のある学生は、教務課の説明に従って手続きをしてください。

※ 一部の科目については、人数調整をした後に、受講する時間帯をお知らせいたします。

④ 1・2・3・4年次 後期開始前(9月上旬)

一部の後期開講科目について、期間をもうけて追加申告を受け付けます。

希望者は指定期間内

9 / 7・8

 に、教務課にて手続きをしてください。

4) 《履修科目申告書の記入上の注意事項》

下記の注意事項をよく読んで誤りのないよう記入してください。

① 仮申告

1. 履修科目申告書の申告の欄に**黒ペン**で○印をする。
2. 教職課程・学芸員課程を履修する場合は、課程履修欄に○印をする。
3. 自主ゼミの受講希望者は自主ゼミ欄に○印をする。
4. 履修単位の表は、分野別の単位数を各自で計算し、仮申告時に確認できる単位数を仮に**鉛筆**で記入する。

② 本申告

1. 履修科目の追加申告は**赤ペン**で○印をする。
履修科目の申告取消は、仮申告時につけた○を**赤ペン**で×印をする。
2. 他学年開講科目(再履修科目他)は「その他」の欄に科目名・担当者・単位・授業コードを記入し、○印をする。
3. 履修単位の表は、分野別の単位数を各自で確認や計算をして、**黒ペン**で記入する。
4. 申告書を提出の際は、履修した科目を履修便覧内の履修科目申告書(控)に転記する等各自控えを手元に残し、自己管理してください。

5) 《履修確認について》

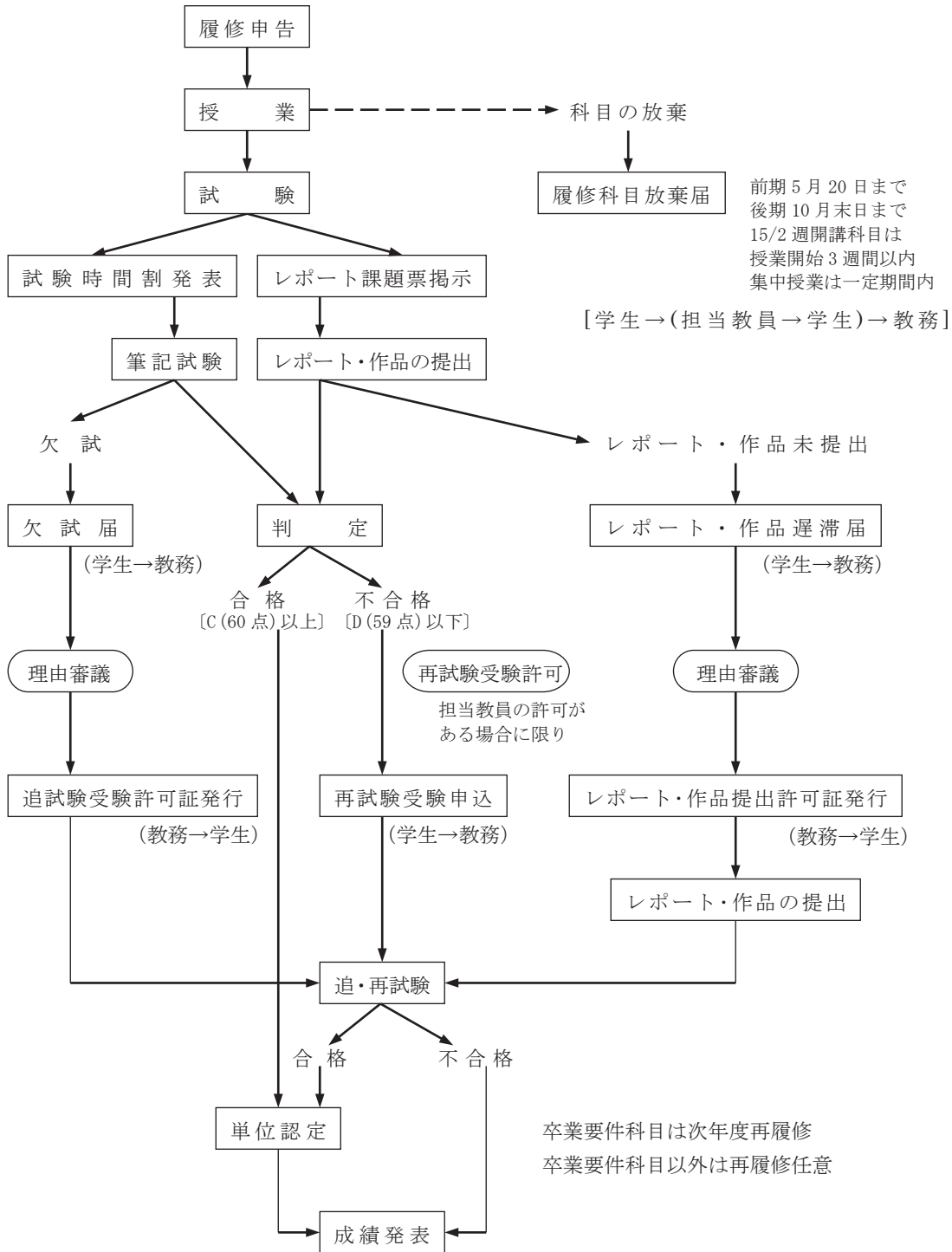
- ① 提出された履修科目申告書はコンピュータ処理をした後、後日学生授業時間割表を各自に配布します。
(教室等の変更は随時掲示確認すること)
- ② 学生授業時間割表受け取り後、必ず提出した申告書と相違ないか本人の控と照合、確認し各自単位の管理をすること。
- ③ 学生授業時間割表に誤りがあれば、直ちに教務課へ申し出てください。(但し、クラス分けや調整で、曜日、時限を変更する場合があります。)

6) 《履修科目の放棄について》

- ① 本申告をした科目を放棄する場合は、教務課備え付けの「履修科目放棄届」に記入の上、教務課に提出してください。ただし、特定の科目については、担当教員の承認が必要な場合があります。
- ② 「履修科目放棄届」の提出期限

前期	5月20日まで
後期	10月末日まで
- ただし1単位の講義科目($\frac{15}{2}$ 週の開講)については授業開始後3週間以内とします。
また、集中授業の科目については定められた期間に限り放棄を認めます。
- ③ 必修科目、外国語科目及びコース別必修科目の放棄は、原則として認めません。
- ④ 期限内に「履修科目放棄届」を提出しなかったり、届出の期限を過ぎ、授業及び試験を無断で欠席した場合は、無届放棄とみなし、当該科目の成績は不合格となります。

履修科目申告から単位認定まで



VIII. 教職課程について

I 教育職員免許法に基づき、本学で取得できる免許状の種類

免許状の種類	免許教科
中学校教諭一種免許状	家庭
高等学校教諭一種免許状	家庭

II 免許状取得のための基礎条件

- (1) 中学校および高等学校教諭の免許状を取得するために必要な基礎資格と条件は、教育職員免許法第 5 条（別表第一）にその免許状の種類によって第 I 表の通り定められています。
- (2) 「教科に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第 3 条・第 4 条により、大学が授業科目と単位数を第 II 表の通り定めています。
- (3) 「教職に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第 6 条により、大学が授業科目と単位数を第 III 表の通り定めています。
- (4) 中学校および高等学校教諭の免許状の授与を受けようとする者について、特に必要なものとして文部科学省令で定める科目と単位数については、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 により、大学が授業科目と単位数を第 IV 表の通り定めています。
- (5) 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例に関する法律（平成 9 年法律第 90 号）により、18 歳に達した後、7 日以上期間、特別支援学校（旧の盲学校、聾学校若しくは養護学校）又は社会福祉施設などで文部科大臣が厚生労働大臣と協議して定めるものにおいて、障害者、高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験（介護等体験）が義務づけられています。

第 I 表 基礎資格と最低修得単位数

所要資格 免許状の種類		基礎資格	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数		
			教科に関する科目	教職に関する科目	大学が独自に設定する科目
中学校教諭	二種免許状	短期大学士の学位を有すること	12	19	4
	一種免許状	学士の学位を有すること	28	27	4
	専修免許状	修士の学位を有すること	27	27	28
高等学校教諭	一種免許状	学士の学位を有すること	24	23	12
	専修免許状	修士の学位を有すること	24	23	36

第Ⅱ表 教科に関する科目表

(2020年度生)

教科に関する 科目	教育職員免許法 施行規則に定める 最低修得単位数		本学の該当科目										備考		
	(第4条) 中学校 1種	(第5条) 高等学校 1種	授業科目名	履修単位数								教職			
				必修	コース別必修						選択	必修		選択	
					モード	インダストリアル	テキスタイル	プロダクト	マネジメント	イノベーション					
家庭経営学 (家族関係学 及び家庭 経済学を含む)	1	1	家庭経営学 (家族関係学及び 家庭経済学を含む)										2	2	
			小計										2	2	
被服学 (被服製作 実習を含む)	1	1	服飾造形基礎Ⅰ	3											
			服飾造形基礎Ⅱ	3											
			衣服材料学	2											
			アパレル素材論	2											
			和服構成論・実習Ⅰ									1	1		
			和服構成論・実習Ⅱ									1	1		
			衣服管理									2	2		
			服飾手芸(ニットを含む)									1	1		
			モードクリエイションⅠ		3										
			モードクリエイションⅡ		3										
			ドレーピング&パターンメイキングⅠ		1										
			ドレーピング&パターンメイキングⅡ		1										
			感性産業デザインⅠ			3									
			感性産業デザインⅡ			3									
			CGデザインⅠ			1									
			CGデザインⅡ			1									
			ダイニングテクニクⅠ				2								
			ダイニングテクニクⅡ				2								
			テキスタイルデザインⅠ				2								
			テキスタイルデザインⅡ				2								
			ファッションプロダクトデザインⅠ					2							
			ファッションプロダクトデザインⅡ					2							
			プロダクトデザイン演習Ⅰ					2							
			プロダクトデザイン演習Ⅱ					2							
			消費者行動論Ⅰ						2	2					
			グローバルマネジメント特論Ⅰ							2	2				
			ファッションエディトリアルⅠ							2	2				
			ファッションマーケティング論							2	2				
			ドレーピング&パターンメイキングⅣ(選)									1			
			小計	10	8	8	8	8	8	8	8	6	5		
食物学 (栄養学・食品学 及び 調理実習を含む)	1	1	食物学(実践栄養学)									2	2		
			食物学(食品学)									2	2		
			食物学(調理実習・実験)Ⅰ									1	1		
			食物学(調理実習・実験)Ⅱ									1	1		
			小計									6	6		
住居学	1	1 (製図を含む)	住居学(製図を含む)									2	2		
			小計									2	2		
保育学	1 (実習を含む)	1 (実習及び家庭看護を含む)	保育学 (実習及び家庭看護を含む)									2	2		
			小計									2	2		
家庭電気・機械 及び情報処理	0	1	家庭電気・機械									1	1		
			家庭情報処理									1	1		
			小計									2	2		
教科及び教科の指導法 に関する科目における複 数の事項を合わせた内 容に係る科目															
各教科の指導法(情 報機器及び教材の活 用を含む)	8	4	教科教育法基礎(家庭)											1	
			家庭科教育法(基礎)											2	
			家庭科教育法											2	
			教科教育法(家庭)											3	
			小計											8	
合計	28	24	合計	10	8	8	8	8	8	8	8	20	27		

第Ⅲ表 教職に関する科目表

教職に関する科目	教育職員免許法施行規則 第6条に定める教職に関する科目			本学の該当科目		
	各科目に含めることが必要な事項	単位数		授業科目名	単位数	
		一種			必修	選択
		中学	高校			
教科及び教科の指導法に関する科目	イ 教科に関する専門的事項 ロ ■各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)一定の単位数以上修得すること	28	24	別表 第Ⅱ表	28	24
教職の基礎的理解に関する科目	イ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ロ 教育の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応を含む) ハ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。) ニ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ホ ■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解(1単位以上) ヘ 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)	10	10	教育原理 教師論 教育制度論 教育法規 教育心理学 特別支援教育概論 教育課程論	2 2 2 2 2 2 2	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ■道徳の理論及び指導法(一種:2単位、二種:1単位) ロ 総合的な総合的な学習の指導法 ハ 特別活動の指導法 ニ 教育方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む) ホ 生徒指導の理論及び方法 ヘ 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法 ト 進路指導(キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。)の理論及び方法	10	8	道徳の指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育方法論 生徒指導論 (進路指導を含む) 教育相談 (カウンセリングを含む)	2 2 2 2 2 2 2	
教育実践に関する科目	イ ■教育実習(学校インターンシップ(学校体験活動)を2単位まで含むことができる。)(5単位) ロ ■教育実践演習(2単位)	7	5	教育実習(事前事後指導を含む) 教職実践演習(中等)	5 2	
大学が独自に設定する科目						
合 計		55	47	合 計	59	2

第IV表 その他に関する科目表

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める最低修得単位	中学校1種・高等学校1種免許状取得のための最低修得単位数	本学の該当科目			備考
		授業科目名	単位数	履修方法	
日本国憲法	2	憲法	2		
体 育	2	体育 A	1		
		体育 B	1		
外国語 コミュニケーション	2	基礎英会話 I	2	いずれか 4単位を 選択履修	
		基礎英会話 II	2		
		フランス語 (会話) I	2		
		フランス語 (会話) II	2		
		中国語 (会話) I	2		
中国語 (会話) II	2				
情報機器の操作	2	情報演習 I (学修ポートフォリオを含む)	2		
		情報演習 II (学修ポートフォリオを含む)	2		

【履修申告にあたり】

大学における教員養成には、教員養成を目的とした国立大学を中心とした「目的大学」と、教員養成を主たる目的としないで、文部科学省から課程認定をうけた教職課程を別に設け、教員の免許状が取得できる「一般大学」とがあります。

本学は勿論後者ですが、一般大学には目的大学にはないその大学独自の教員養成が求められています。

本学は服飾学部・服飾学科の単科大学で、教員養成の課程認定は高等学校教諭一種免許状「家庭」と中学校教諭一種免許状「家庭」の養成機関として認可を受けています。同じ「家庭」教員養成機関でも大学によって専門のバックグラウンドには違いがあります。本学は「服飾学」を専門の中心においております。その専門に加え、中学校・高等学校で指導する「家庭経営学」「食物学」「住居学」「保育学」「家庭電気機械及び情報処理」といった科目を履修していきます。これが前ページの第II表の「教科に関する科目表」の科目です。

第III表の「教職に関する科目表」は、中・高等学校の各教科免許状取得を目指す学生が共通に学ぶ科目です。大学によって授業科目名は違いますが、表の「各科目に含めることが必要な事項」が各学習内容です。教科指導同様、教科外の指導や教員としての姿勢、態度の育成が目的となります。

第IV表の「その他に関する科目表」も、現在教員に求められる4領域の科目です。履修申告の際には、申告忘れないように注意してください。

【本学が養成したい教員像】

上記のように、本学は教員養成の「目的大学」ではなく教職課程を認可された「一般大学」ですが、本学の教員養成の姿勢は「目的大学」に期待される養成と同じく、責任・監督官庁である文部科学省や社会の要請・期待に応えるべく、優れた教員の育成を目指しています。

よって、平易な言い方ですが、1年生の教職課程履修希望者の履修動機は、資格だけほしいとか他者の勧めで履修したとか様々でしょうが、本学の教職課程は、教員職に就くか就かないかは本人の問題ですが、「教員」になることを前提とした教育を行っています。すなわち「教科に関わる科目」を通して、中等教育における「家庭科教育」の重要性と知識を伝え、「教職に関わる科目」を通して、「教員として、家庭科教員として求められる資質の養成と向上」を4年間を通して行っています。履修者の立場でその教員像を示すなら、家庭科教員としては「家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項」について専門的な知識と技能を身につけます。また「教員として求められる知識」を習得し、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」他などの汎用的技能を身につけている教員を目指します。さらに教員の態度として求められる、自ら律して行動できる「自己管理能力」、他者と協調して行動できる「チームワーク力」、「リーダーシップ性」、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる「倫理観」、社会の一員としての「社会的責任感」、生涯を通しての「学習力」などを全学的な学習環境、教職課程の教科、特に教職課程での諸活動を通して身につけます。

免許取得後については、必ずしも学校教育に携わることがすべてではありません。自己評価、他者評価を通して、学校教育の教員としての適正があるかを確認、社会人、民間企業でも教職課程の学習を活かせればよいとも考えています。また善き学校理解者として学校教育外から「教育」を支援できることも教職課程での成果と考えています。

教職課程の履修にあたり、上記を理解し、前向きな姿勢で履修し専門教育と両立させてください。

【本学の教員養成の理念を実現するための教職課程指導体制】

本学では、「杉野服飾大学教職委員会規程」のもと全学的な指導体制を構築する為に、委員会構成メンバーは、「学部長」「教育職員免許法が規定する「教職に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教育職員免許法が規定する「教科に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教務部長」「その他学長が必要と認めた者」から構成されています。本年度は11名で運営しています。年度内に委員会を4回開催し、教職課程の運営上の問題に関する事項、教職課程で実施する諸活動に関する事項、教育実習・介護等体験の許可等に関する事項、その他教職課程に関する事項について審議・報告・情報交換を行い、教授会に報告しています。特に教育実習校訪問指導は、全実習校を対象に実施しているので全学的な協力を要請しています。今後皆さんが履修を進めて行く上で、委員会で半期ごとに履修状況を確認して指導をしていきます。詳しくは後述（「教職課程履修に関わる注意事項」）しますので、あらかじめ内容を理解しておいてください。

【履修モデル】

1年生4月、7月に開催する教職課程説明会で「杉野服飾大学 教職関連科目及び教職諸活動一覧」を用いて説明します。出席も履修条件ですので、必ず出席してください。

教職課程履修に関わる注意事項

1年生①後期の履修開始前に実施する前期末の「教職課程説明会」と後期始めの「教職課程履修説明会」に必ず出席すること。

②後期開講科目の「教師論」「教育心理学」「教育制度論」のいずれか1科目が不合格になると、原則として2年次以降の教職課程は履修できない。1年次の3科目の合格をもって2年次の科目を履修できる。よって1年次科目の再履修の場合は卒業時に免許状取得が不可能となる。

2年生 下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4年次の中学校・高等学校での「教育実習」の依頼活動を許可する。この時点で不許可の者は、4年生開講の「教育実習」は履修できない。

3年生①「教壇模擬演習」を実施する。

②下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4年次の教育実習を許可する。この時点で不許可の者は4年生開講の「教育実習」は履修できない。

4年生 教員免許状取得に必要な全ての修得単位、「介護等体験」「教育実習」の実施を確認の上、本学から東京都教育委員会に免許状申請する。免許状は本学卒業式に授与する。

★ 教育職員免許状を取得するためには、必修・専門科目などの履修に加えて、卒業時までには教職に関する（教科・教職）科目を62単位以上修得することが必要です。心身共に余裕を持ち、全学年を通じて明確な意志を継続し、全ての授業に臨むこと。

教育実習許可要件

1. 教職委員会が許可する者

- ① 1・2年次における必修科目、3年次におけるコース別必修科目、教養科目の単位の修得状況を参考にする。
- ② 教育実習実施までの教職に関する（教科・教職）科目の履修状況、及び教職課程諸活動へのかわり方を参考にする。
- ③ 編入生及び科目等履修生については上記①②に準じて個別に検討する。

2. 教職課程履修費を納入済みの者

博物館とは

日本で博物館といわれているものは、歴史博物館、民俗（族）博物館、考古博物館、美術館、郷土館、記念館のようなものから自然を対象とする自然史博物館、科学館、天文博物館、水族館、動植物園のようなものまでひろく包含されます。

これらの博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等を通して社会に対し様々な情報提供サービスをすると共に、我が国の教育、学術及び文化の発展に大きく寄与してきました。

近年、所得水準の向上や自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいなどを求めて人々の学習ニーズは増大し、かつ多様化、高度化してきています。また一方で、科学技術の高度化、情報・通信技術の進展や、教育、学術、文化などの各分野にわたる広域・国際的な交流の活発化、さらには地域文化への関心の高まりなど、博物館を取り巻く環境には様々な変化が生じています。こうした中で、博物館は社会の進展に的確に対応し、人々の知的関心にこたえる施設として一層発展することが期待されています。また、情報化の進展の中で実物資料に身近に触れることができる博物館の意義が改めて認識されています。

特に、今後は地域における生涯学習推進のための中核的な拠点としての機能を充実するとともに、地域文化の創造・継承・発展を促進する機能や、様々な情報を発信する機能を高めていく必要があります。また、博物館は青少年にとって実物資料等による魅力ある体験学習ができる場であり、学校教育以外の活動あるいは学校教育と連携した学習のために一層重要な役割を發揮することが期待されています。

学芸員とは

学芸員は博物館法に基づき博物館におかれる専門的職員であり、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っています。また、学芸員は拡大する生涯学習社会において社会教育を推進する上で重要な役割を担うところから、一層の資質の向上と高い専門性を養成することが望まれています。人類や地域にとって重要な資料や文化遺産等を取り扱い、人々の新しい知識の創造と普及のために役立てるという業務の特性から、学芸員には極めて高い職業倫理が必要とされています。

こういった近年の需要を受けて、平成 21 年に博物館施行規則が改正され、平成 24 年 4 月 1 日より養成科目の改善・充実を図った制度が施行されました。

(平. 8. 4. 24 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「学芸員の養成・研修の改善方策について」の主旨より一部抜粋)

学芸員養成について

学芸員の養成は、博物館法及び同法施行規則に基づき、基本的に大学で行われています。

前述のように、博物館において大切な意味を持っている学芸員の養成は、各大学に委託されており、杉野服飾大学もその一つです。1973 年より大学に学芸員課程をおき、履修者は国家資格の「学芸員」が取得できるようになっています。

現在、日本の博物館法で認められた博物館は 1,286 館（平成 30 年度文部省「社会教育調査」）あり、本学園の衣裳博物館はこの博物館法で定められた「博物館」の一つです。

大学等における博物館の養成内容については、昭和 30 年に博物館施行規則が制定されてから、大幅な見直しは行われていませんでした。しかし近年、拡大する生涯学習と多様化する社会に対応できる、より高度で専門的な学芸員の養成が唱えられました。平成 24 年 4 月 1 日以降、学芸員養成内容に大幅な見直しが反映されています。（平成 8 年 4 月 24 日生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方策について」参考）

博物館法（平成26年6月4日最終改正より一部抜粋）

（この法律の目的）

第1条 この法律は、社会教育法に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第2章の規定による登録を受けたものをいう。

2. この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。
3. この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録を含む）をいう。

（博物館の事業）

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- 1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - 2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - 3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - 4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - 5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - 6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
 - 7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - 8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - 9) 社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
 - 10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - 11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
2. 博物館は、その事業を行うに当たっては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員、その他の職員）

第4条 博物館に、館長を置く。

2. 館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
3. 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4. 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
5. 博物館に館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
6. 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの
 - 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
2. 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

I. 大学における資格取得のための基礎条件

上記、博物館法第5条（1）に規程されている通りです。

II. 学芸員資格取得に必要な履修科目と単位数

1. 博物館に関する科目とその単位については、博物館法施行規則の第1条に次のように規定されています。（平成27年10月2日最終改正）

科目名	単位数	ね ら い	内 容
生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の意義を理解し、学習活動を効果的に援助する方法等の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の意義 ・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育 ・生涯学習関連施策の動向 ・社会教育の意義 ・社会教育の内容・方法・形態 ・社会教育指導者 ・社会教育施設の概要 ・学習情報提供と学習相談の意義
博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の定義 ・博物館の歴史 ・博物館の目的と機能 (社会的存在意義・政治性) ・博物館の現状 ・学芸員の役割 ・博物館の館種・設置者 ・博物館関係法規
博物館経営論	2	博物館経営について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアム・マネージメントの必要性 ・博物館倫理 ・博物館の行財政制度 ・博物館の施設・設備 ・博物館の組織 ・博物館の職員 ・博物館の管理・運営方式 (直営、財団、指定管理者、PFI等) ・博物館の財務、資金調達 ・マーケティング、広報・宣伝 ・博物館利用者の把握 ・博物館の危機管理 (リスクマネージメント) ・博物館とユニバーサル化 (バリアフリー等) ・博物館のネットワーク
博物館資料論	2	博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の修得を図り、併せて博物館の調査研究活動について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の収集 ・博物館資料の整理保管 ・博物館資料の保存 ・博物館資料の展示 ・博物館における調査研究活動の意義と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館資料保存論	2	博物館資料及び、その保存・展示環境を科学的に捉え、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館保存科学の意義 ・資料保存の諸条件とその影響(温湿度・光・振動・大気など) ・収蔵庫と展示室の保存環境 ・伝統的保存方法とIPM ・生物被害の防除と対策 ・資料と環境の点検と記録(機器に対する知識を含む) ・災害の防止と対策(火災・地震・水害・盗難など) ・資料の現状の調査と把握 ・資料の修復 ・資料の移動(梱包と輸送の方法と知識)
博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、教育、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術の習得を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示の意義 ・展示の歴史 ・展示の諸形態、展示の企画、デザイン、製作 ・業者の評価・効果の検証及び改善方法 ・展示の技術と効果 ・博物館展示の情報伝達機器 ・展示解説書の製作(展示図録・パンフレット等) ・展示活動と情報
博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や方法に関する知識・技術の習得をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の本質及び目標 ・生涯発達と教育 ・博物館教育の意義と方法 ・博物館教育の理念と理論(コミュニケーション、構成主義等) ・教育活動の企画と実施 ・博物館教育の諸形態(展示、体験学習、講演会、アウトリーチ活動、レファレンスサービス等) ・教育普及とコミュニケーション ・博物館と学校との連携 ・生涯学習と博物館 ・博物館教育の評価の目標と方法

科目名	単位数	ね ら い	内 容
博物館情報・ メディア論	2	博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開課題等について理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館における情報の意義 ・資料収集保管活動と情報 ・研究活動と情報 ・博物館における情報の提供と活用の方法 ・博物館における情報機器 ・博物館における著作権 ・資料公開の理念(アクセス権)と方法(IT技術等を用いた広報発信等を含む) ・博物館における情報管理と情報公開 ・ICT社会の中の博物館 ・博物館における情報化の現状と課題 ・博物館のホームページ ・コレクション情報のデータベース化とネットワーク化
博物館実習	3	博物館における実習を通じ、多様館種の実態や学芸員の業務の理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館資料の取扱い、展示、博物館の運営等についての学内(見学を含む)及び博物館における実習。事前・事後の指導を含む。

- 1) 博物館実習は、博物館法第2条第1項に規定する博物館又は、第29条の規定に基づき文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設(大学においてこれに準ずると認められた施設を含む)における実習により修得するものとする。
 - 2) 「博物館実習」の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。
2. 選択科目については博物館法施行規則第6条3項に次の様に規定されています。

授 業 科 目 名	
文 化 史 美 術 史 考 古 学 民 俗 学 自 然 科 学 史 物 理 学 化 学 生 物 学 地 学	左記のうちから2科目を選択

本学では文化史関係と美術史関係を学べるよう開講しています。

本学の学芸員課程の履修科目の詳細は、「カリキュラム表」の「資格取得を目的とするもの」の欄「学芸員課程」に示すとおりです。

学芸員課程に関する科目

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第1条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
規定科目	単位数				
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
	博物館概論	2	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
	博物館実習	3	博物館実習	3	

2009年度生より適用

(博物館法施行規則第6条による)		単位数	本学の該当科目	単位数	備考
系	列				
選択	文化史	2 履修すること 以上 に わ た り	現代デザイン論	2	
			西洋服飾文化史	2	
			日本服飾文化史	2	
			染織史	2	
			ファッションプレゼンテーション演習	2	
	美術史		西洋美術史	2	
			日本美術史	2	

X. 授業計画

【整理番号】

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 【1】 モードデザインⅣ | 【20】 言語と服飾文化 |
| 【2】 卒業制作Ⅰ(モード)① | 【21】 教育実習(事前事後指導を含む) |
| 【2】 卒業制作Ⅰ(モード)② | 【22】 教職実践演習(中等) |
| 【3】 卒業制作Ⅱ(モード)① | 【23】 博物館実習 |
| 【3】 卒業制作Ⅱ(モード)② | |
| 【4】 卒業制作Ⅰ(インダストリアル) | |
| 【5】 卒業制作Ⅱ(インダストリアル) | |
| 【6】 テキスタイルデザインⅤ | |
| 【7】 卒業制作Ⅰ(テキスタイル) | |
| 【8】 卒業制作Ⅱ(テキスタイル) | |
| 【9】 卒業制作Ⅰ(プロダクト) | |
| 【10】 卒業制作Ⅱ(プロダクト) | |
| 【11】 グローバル・マネジメント特論Ⅱ | |
| 【12】 店舗開発マネジメント論 | |
| 【13】 ファッションMD評価システム | |
| 【14】 卒業論文Ⅰ(マネジメント) | |
| 【15】 卒業論文Ⅱ(マネジメント) | |
| 【16】 顧客関係論 | |
| 【17】 ファッションテック論 | |
| 【18】 卒業論文Ⅰ(イノベーション) | |
| 【19】 卒業論文Ⅱ(イノベーション) | |

モードデザインⅣ

白木 ゆみ香

4年 前期 モード必修 (1単位 実習)

■授業の方針・概要

モードデザインⅣでは、モードデザインⅠⅡⅢで学んだデザイン力を元に、卒業時まで学んでおきたいスキルを、総合的に学習します。デッサン力やデザイン力の向上を目指し、各種コンテストにも積極的に参加していきます。

この授業では、モードクリエーションコースにとって必要不可欠な、「デザイン力」や「表現力」を鍛え、就職活動でも使えるポートフォリオ製作なども併せて学修します。

■到達目標（学修成果）

自分の研究テーマやコンセプトに沿ったデザインを、イメージ通りに表現出来る力を身に付ける。企画書を作成できる技術を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、モードクリエーションコースの必修科目で、卒業要件の単位となります。ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション デザイン発想Ⅰ テーマ：点・線・曲線・図形 (アイデアスケッチ) ①	予習：シラバスを読む。	15分
2回	デザイン発想Ⅰ テーマ：点・線・曲線・図形 (コンセプトシート+デザイン画+ハンガーイラスト) ②	復習：作品課題を完成させる。	60分
3回	デザイン発想Ⅱ テーマ：各自で設定 (コンセプトシート+デザイン画+ハンガーイラスト) ①	予習：図書館・インターネットにて資料収集。	60分
4回	デザイン発想Ⅱ テーマ：各自で設定 (コンセプトシート+デザイン画+ハンガーイラスト) ②	復習：作品課題を完成させる。	60分
5回	デザイン発想ⅠⅡ ⅠⅡの作品のプレゼン発表	予習：プレゼン準備。	60分
6回	全国ファッションデザインコンテスト ① コンzeptシート作成	復習：作品課題を完成させる。	60分
7回	全国ファッションデザインコンテスト ② デザイン画作成	復習：作品課題を完成させる	60分
8回	Photoshop・Illustrator・Power Point 作品集作成① 卒業制作のコンセプトシート作成	予習：イメージ画像の準備	60分
9回	Photoshop・Illustrator・Power Point 作品集作成② 卒業制作のデザイン画スキャン・着色	予習：デザイン画の準備	60分
10回	Photoshop・Illustrator・Power Point 作品集作成③ 卒業制作のデザイン画着色・レイアウト	予習：素材集め	60分
11回	Photoshop・Illustrator・Power Point 作品集作成④ カラー展開・素材やパターン配置	復習：資料の整理	60分
12回	Photoshop・Illustrator・Power Point 作品集作成⑤ その他の作品まとめ。	予習：資料の整理	60分
13回	Photoshop・Illustrator・Power Point 作品集作成⑥ プレゼン資料作成	復習：作品課題を完成させる。	60分
14回	Photoshop・Illustrator・Power Point 作品集作成⑦ プレゼン資料作成	復習：プレゼン準備。	60分
15回	Power Point 卒業制作を含む各自の作品集 プレゼン発表	予習：プレゼン準備。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

- ・作品課題の提出は、教室またはデザインCG研究室（研究棟1F）まで、指定された日時までに提出のこと。
- ・作品課題の返却は、採点または手直し後、教室にて返却。・試験はなし。
- ・プレゼンテーションにて発表の際に講評あり。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	55%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	15%

■教科書 必要に応じてプリント配布。 教材「Fashion Illustration Sheet」「Fashion Ruler」

■参考文献 MODE Et MODE、各種専門誌。

■オフィスアワー・研究室

【前期】木 14:30～16:00 【後期】水 15:00～16:00

【研究室】デザインCG研究室（研究棟1F）

■備考 進捗により、日程および内容の変更あり。必要と思われる展示会や美術展などの見学あり。

卒業制作Ⅰ（モード）①

北折 貴子

4年 前期 モード必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

パターンと縫製の両面から応用の技術を身につけ、卒業制作に向けて創造的な造形、特殊素材、特殊縫製について研究します。研究内容を総合して試作を行い、卒業制作を制作します。実務経験のある特殊パターンの特別演習を行います。実務経験のある外部講師による特殊パターンの考え方を学びます。

■到達目標（学修成果）

テーマやデザインを検討、研究することで、確かな技術と優れた卒業制作作品へ向かうことができます。服を総合的に捉えることができる人材育成と、イメージを形にする造形力を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目はモードクリエーションコース専門科目（服飾関係）必修科目として卒業認定に関わる要件科目です。また、ディプロマポリシーの専門教育課程コース別教育目的と目標の達成に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	デザイナー研究・グループワーク（現在活躍しているデザイナーのデザインとパターンを探る）パターンを描く。	予習：デザイナーとデザインについて調べ、プレゼン用にまとめる。	90分
2回	デザイナー研究・グループワークでディスカッションを行い試作し、プレゼン発表をする。講評による評価をする。	復習：講評を受け、卒業制作に生かすべく振り返りを行う。	30分
3回	卒業制作研究テーマについて相談 試作を行う・外部講師による特殊パターンワークショップ	予習：研究テーマについて調べ、計画書をまとめる。	120分
4回	卒業制作研究テーマの試作についてプレゼンし、アクティブラーニングを行う。（テーマの妥当性など検証）	予習：研究したものを試作し、プレゼン資料をまとめる。	120分
5回	卒業制作1・・・デザイン考案と素材検討 試作の検討を検討する。	予習：デザインにあった素材を探し、試作を行う。	1200分
6回	卒業制作1・・・デザインにあったパターン作成を行う 文献による研究資料作成を同時進行で行う。	予習：デザインにあったモデル探し 復習：パターンを完成する。	120分
7回	卒業制作1・・・パターン作成後トワルによる試作作成 実務経験のあるパターンナーによる特殊パターンの演習	復習：トワルを仕上げる。特殊パターンのワークショップ作品を仕上げる。	120分
8回	卒業制作1・・・ボディにおけるトワルによる補正後、デザインを確認し、訂正を行う。	復習：トワルを直し、モデルサイズに調整し直す	120分
9回	卒業制作1・・・モデルによる補正後体型による補正を行う。 ディテールの部分縫い	復習：補正後の製図を直す。 ディテールの部分縫い直し	30分
10回	卒業制作1・・・製図直しと縫製手順検討後、型紙作成 1/5大製図描きについて	復習：型紙を完成する。 副資材を探し、サンプル購入	120分
11回	卒業制作1・・・実物裁断としりし入れ、接着、テープ貼り、部分作成	復習：ディテールをいろいろ試作し検討する。1/5大製図を描く	90分
12回	卒業制作1・・・実物縫製 要項のまとめについて	復習：縫製を進める 要項を描く	120分
13回	卒業制作1・・・実物補正及び縫製 1/5大製図、要項の下書き提出	予習：補正後直しを行い、縫製を行う。	120分
14回	卒業制作1・・・縫製とディテール付け、仕上げ 1/5大まとめ製図と要項下書きを訂正説明返却	復習：縫製の仕上げをする。1/5大まとめ製図と要項下書きを直す	120分
15回	卒業制作1・・・1/5大まとめ製図と要項下書き、1作目プレゼン提出（アクティブラーニング）→講評、その後の作品について相談	復習：講評を受け、問題点を振り返り、後期の作品づくりに生かす。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評、作品の返却を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度（欠席・遅刻も含む）
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	日常課題提出や完成度
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	作品の完成度とプレゼン能力
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ドレメ式原型の教科書各種

■参考文献

モード雑誌各種

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー日時は授業初日に伝えます。教室：2401 教室（第2校舎4階）・研究室：研究棟2階 6021

■備考

進度により、日程及び内容は変更することがあります

卒業制作Ⅰ（モード）②

安部 智子

4年 前期 モード必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

卒業制作は、各自が定めた研究テーマに対し試作・考察を繰り返すことで得られる結果を基に、各自のイメージを服飾造形作品として的確に表現する。作品を制作する上で重要な要素(デザイン・パターン・素材・テクニックなど)の関連性を十分考え、各自の作品を多方面から検証を行う。授業は実習を主としたアクティブ・ラーニングで行い、完成した作品は、制作プロセスをまとめた資料と共にプレゼンテーションを行う。全てのプロセスは最終的に卒業制作研究要項にまとめる。また、各種コンテストなどに積極的に参加する。

■到達目標（学修成果）

パターンや縫製の知識と技術を学修することで、各自の「イメージ」を的確に「服飾造形作品」としてつくり上げる創作力を身につけることが可能となる。また、作品制作プロセスを通して、課題解決の考え方を修得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目はモードクリエーションコース専門科目（服飾関係）必修科目として卒業認定に関わる要件科目である。また、ディプロマポリシーの専門教育課程コース別教育目的と目標の達成に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	卒業制作 スケジュールなどの説明 研究テーマの検討① 課題1 グループワークによる作品制作 作品制作実習	予習：シラバスを読む 卒業制作に関する資料をまとめ、ディスカッションの準備をする	180分
2回	課題1 グループワークによる作品制作 作品制作実習 卒業制作 各自の研究テーマの検討②	予習：卒業制作の研究テーマに関する検討を行う 復習：課題1 作品制作を進め完成させる。	90分
3回	課題1 グループワークによる作品制作 作品制作実習 プレゼンテーション・講評	予習：プレゼンテーションの準備 卒業制作の研究テーマに関する資料を準備する	120分
4回	卒業制作 作品制作実習 各自の研究テーマ決定の検討③	予習：研究状況を確認し、ディスカッションの準備する 復習：ディスカッションの整理	90分
5回	卒業制作 作品制作実習 各自の研究テーマに基づき研究を進める。	予習：研究状況を確認し、ディスカッションの準備をする 復習：ディスカッションの整理	90分
6回	卒業制作 作品制作実習 各自の研究テーマに基づき研究を進める。	予習：研究状況を確認し、テーマを確認し、ディスカッションの準備をする デザイン考案	90分
7回	卒業制作 作品制作実習 作品1制作 研究テーマに沿ってデザイン決定→パターン作成・点検	予習：デザイン考案 復習：パターンを作成する 作品制作を進める	90分
8回	卒業制作 作品制作実習 作品1制作 トワル補正 個別ディスカッション→制作を進める	予習：パターンを完成させ、トワルを作成する 途中経過点検に向けて準備をする	90分
9回	卒業制作 作品制作実習 作品1制作 途中経過確認 個別ディスカッション→制作を進める	途中経過点検に向けて準備をする 点検結果を踏まえ作品制作を進める	90分
10回	卒業制作 作品制作実習 作品1制作 途中経過確認 個別ディスカッション→制作を進める	途中経過点検に向けて準備をする 点検結果を踏まえ作品制作を進める	90分
11回	卒業制作 作品1制作 作品制作実習 途中経過確認 個別ディスカッション→制作を進める	途中経過点検に向けて準備をする 点検結果を踏まえ作品制作を進める	90分
12回	卒業制作 作品制作実習 作品1制作 途中経過確認 個別ディスカッション→制作を進める	途中経過点検に向けて準備をする 点検結果を踏まえ作品制作を進める	90分
13回	卒業制作 作品制作実習 作品1制作 途中経過確認 個別ディスカッション→制作を進める	途中経過点検に向けて準備をする 点検結果を踏まえ作品制作を進める	90分
14回	卒業制作 作品制作実習 作品1制作 最終点検 →完成	最終点検を受け、作品制作を完成させる 予習：プレゼンテーションの準備	120分
15回	卒業制作 作品1制作 作品1 プレゼンテーション・講評 後期制作作品（作品2）についての検討まとめ	復習：前期の課題を振り返り、後期制作作品に向け、夏期休業中の課題を検討する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題作品・プレゼンテーションに対しては、講評・ディスカッションを行いフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、作品や課題への取り組み状況及び提出状況は必ず評価に含める
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品は創作力（イメージをかたちにする力）を重視して採点する。プレゼンテーション資料も評価対象とする。
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 必要に応じ資料を適宜配布する。

■参考文献 ドレメ原型、PATTERN MAKING I II、SEWING I II IIIIV、基礎テキスト、杉野服飾大学 Online text 服飾造形編
その他逐次紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：第1回目の授業で指示。

研究室：研究棟3F 6032B

■備考 日程および予定は、授業進度などにより、変更することもある。

準備学修の必要時間はあくまで目安であって、各自課題の進捗状況にあわせ必要な時間を確保して欲しい。

卒業制作Ⅱ（モード）①

北折 貴子

4年 後期 モード必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

今までに学んだ製図法と縫製技術を生かして、パターン、素材、縫製面において独自の表現方法を研究し、独創的デザインによる作品を制作します。柔軟性のある発想で独創的な作品を作ります。卒業制作発表会に向けて全員がいずれかの係を受け持ち、学生同士協議を重ねてより良い卒業制作発表会になるように準備を行います。

■到達目標（学修成果）

作品の完成、作品の1/5大製図及び要項をまとめて提出後、卒業制作期間にショー形式で発表を行うことが必須です。モードクリエイションコース卒業認定の要件科目です。オリジナルデザイン発想と縫製工程の分析、完成度の高い作品制作技術が修得できます。卒業制作発表会に向けてショーを作り上げていく上で協調性、社会適応能力等、精新面の向上も目指します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目はモードクリエイションコース専門科目（服飾関係）必修科目として卒業認定に関わる要件科目です。また、ディプロマポリシーの専門教育課程コース別教育目的と目標の達成に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期の作品の講評を踏まえ、各自研究テーマに基づきバリエーション作品のデザインを考案する。	予習：文献等と調べ、デザインを考案する。デザイン画の作成。	120分
2回	卒業制作2～5・・・デザインをもとにパターンを描く	復習：パターンを完成する。	90分
3回	卒業制作2～5・・・トワルによる試作検討	復習：トワルを組み立てる。	120分
4回	卒業制作2～5・・・モデルによる補正	復習：モデル補正後の製図直し。	60分
5回	卒業制作2～5・・・製図直しと縫製手順検討	復習：縫製手順を再検討。	30分
6回	卒業制作2～5・・・ディテールの部分縫い	復習：ディテールをいろいろ試作し、検討する。	90分
7回	卒業制作2～5・・・型紙つくりと実物裁断	復習：型紙を完成させ、生地を裁断する。	120分
8回	卒業制作2～5・・・実物補正と縫製	準備学習：実物補正用の仮組み立てを行う。	120分
9回	卒業制作2～5・・・縫製とディテール付け	復習：ディテールを制作する。	120分
10回	卒業制作2～5・・・仕上げ後、途中報告のプレゼンテーションを行いディスカッションにより、再検証を行う。	復習：縫製の仕上げを行う。	120分
11回	卒業制作2～5・・・全身の装飾等の検討と手直しトータルバランスを考え、仕上げる。	復習：市場調査を行い、装飾を検討する。	90分
12回	卒業制作2～5・・・1/5大製図仕上げ ・作品の縫製提出→コメントをつけて返却後直しを行う。	復習；1/5大製図を描く。	60分
13回	卒業制作2～5・・・要項仕上げ ・作品の撮影および発表の準備に係全員で協力して行う。	復習：要項を仕上げる。	90分
14回	卒業制作1～5・・・縫製確認と縫製直し提出後、すべての作品における5/1大製図、要項を提出し、講評を行う。	復習：縫製の不備を直す。	90分
15回	卒業制作発表会に向けて効果的な発表を検討し、全員でディスカッションを行いながらまとめる（アクティブラーニング）	復習：発表に向けて装飾を整える。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出物に関しては授業内で講評、作品の返却を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度（欠席・遅刻も含む） 卒業制作発表会に向けて係の協調性と活動等も含める
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	日常課題提出や完成度
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	作品の完成度とプレゼン能力
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ドレメ式原型の教科書各種

■参考文献

モード雑誌各種

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー日時は授業初日に伝えます。教室：2401 教室（第2校舎4階）・研究室：研究棟2階 6021

■備考

進度により、日程及び内容は変更することがあります。

2月の卒業制作発表期間にショー形式で作品を発表し、作品写真・卒業要項と1/5大製図を提出します。

卒業制作ショーに向けて全員で係を担い、協力して作り上げます。

卒業制作Ⅱ（モード）②

安部 智子

4年 後期 モード必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

前期に引き続き、各自の研究テーマに基づき、個々のイメージを服飾造形作品として表現するための的確な方法を研究する。授業は実習を軸としたアクティブ・ラーニングで展開する。完成した作品は、1/5大製図を含めた全てのプロセスを最終的に卒業制作研究要項にまとめる。また、ショー形式の発表会の企画・運営を行い、服飾に関する幅広い知識を得る。

■到達目標（学修成果）

パターンや縫製の知識と技術を学修することで、各自の「イメージ」を的確に「服飾造形作品」としてつくり上げる創作力を身につけることが可能となる。また、作品制作プロセスを通して、課題解決の考え方を修得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目はモードクリエイションコース専門科目（服飾関係）必修科目として卒業認定に関わる要件科目である。また、ディプロマポリシーの専門教育課程コース別教育目的と目標の達成に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 デザイン検討→パターン作成→点検	予習：シラバスを読む 夏期課題を確認し、後期のスケジュールを確認する	60分
2回	卒業制作 作品2制作 トワル作成→補正	復習：パターンを完成させ、トワルを作成する	90分
3回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 トワル補正 個別ディスカッション→制作を進める	作品制作を進める	90分
4回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 途中経過確認 個別ディスカッション→制作を進める	途中経過点検に向けて準備をする 点検結果を踏まえ作品制作を進める	90分
5回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 実物補正 個別ディスカッション→制作を進める	制作を進める 途中経過点検に向けて準備をする	90分
6回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 実物補正 個別ディスカッション→制作を進める	制作を進める 途中経過点検に向けて準備をする	90分
7回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 実物補正 個別ディスカッション→制作を進める	制作を進める 途中経過点検に向けて準備をする	90分
8回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 途中経過確認 個別ディスカッション→制作を進める	途中経過点検に向けて準備をする 点検結果を踏まえ作品制作を進める	90分
9回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 途中経過確認 個別ディスカッション→制作を進める	制作を進める 途中経過点検に向けて準備をする	90分
10回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 途中経過確認 個別ディスカッション→制作を進める	制作を進める 途中経過点検に向けて準備をする	90分
11回	卒業制作 作品制作実習 作品2制作 最終点検→作品完成 プレゼンテーション・講評 発表会の構成を検討する	最終点検を受け、作品制作を完成させる 予習：プレゼンテーションの準備	90分
12回	卒業制作研究要項執筆 全作品の1/5大製図をまとめる→ 点検→完成	資料を準備し、卒業制作研究要項の下書きを進める	90分
13回	卒業制作研究要項執筆 プロセスをまとめる→点検→ディ スカッション→修正→清書	点検を受け、卒業制作研究要項をまとめ、 完成させる。	90分
14回	完成作品の写真を撮影する。 卒業制作研究要項を完成させ、提出する	予習：アクセサリーなどの付属品を確認 する 卒業制作発表会の準備をする	60分
15回	卒業制作発表会準備 まとめ・講評	復習：卒業制作作品を総合的に考察して まとめる	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題作品・プレゼンテーションに対しては、講評・ディスカッションを行いフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、作品や課題への取り組み状況及び提出状況は必ず評価に含める
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品は創作力（イメージをかたちにする力）を重視して採点する。 プレゼンテーション能力も評価対象とする。
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 必要に応じ資料を適宜配布する。

■参考文献

ドレメ原型、 PATTERN MAKING I II、 SEWING I II III、 基礎テキスト、 杉野服飾大学 Online text 服飾造形編
その他逐次紹介する。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：第1回目の授業で指示。 研究室：研究棟3F 6032B

■備考

日程および予定は、授業進度などにより、変更することもある。

準備学修の必要時間はあくまで目安であって、各自課題の進捗状況にあわせ必要な時間を確保して欲しい。

卒業制作Ⅰ（インダストリアル）

住野 雅子

4年 前期 インダストリアル必修 (3単位 実習)

■授業の方針・概要

3次元計測器を利用しながらターゲットの原型をCAD&3Dで作成し、体形を研究する。CGデザインⅣでリサーチしたデザインを作品にしていく。その中からパターン設計の方法論を学修する。CAD&3D演習Ⅰで学んだ人体に適合するパターンを研究する。インダストリアルパターンⅢ、Ⅳ、感性産業・CADⅠ、Ⅱの科目の学修をし、縫製、CADパターンメイキングを総合して、オリジナル作品へと創造していく。3次元を利用した消費者個人適合型商品工業生産創造システム（カスタマイジング クロージング システム）に基づき企業で商品化した経験を生かし、実践的な修得を目指す。

■到達目標（学修成果）

到達目標は、2作品のパターンとそれに合う人体や素材選ぶ事を到達目標とする。レベルは就職活動や展示会で利用できる作品の縫製仕様書（絵型）やCAD&3Dによるパターン技術のスキルを修得する事を目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

インダストリアルパターンコースの卒業認定・学位授与に関連する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	1作品～2作品のパターンについて検討、年間予定、施設説明 3次元計測室（body line Manager）アパレル実習室（電子鳩目ボタンホール：MEB-3200 高速一本針本縫筒型門止めミシン：LK-1850 他） 2103CAD室（プロッター パターンキャナー他）	復習：各自の年間予定に合わせシラバス計画使用機器について 設備を確認しておく。 （3次元計測室）（アパレル実習室）（2103CAD室）（3303教室）	120分
2回	学外審査会に向けて 作品作り CGデザインで採択されたデザイン 企業審査による作品	予習：モデル2名検討期間3D計測データファイルをもとめてくる。3年から継続するモデル確認。（3次元計測室データ確認室） 復習：資料閲覧（図書館）	120分
3回	オリジナルデザイン作品 CAD&3D利用 セットイン・トルソー（レディース メンズ）どちらかを選定し、CADパターンメイキングを行う。（2103CAD室）	予習：セットイン・トルソー（2103CAD室） 復習：実物用布縫製（サンプル資料検討）（アパレル実習室、3303教室）	180分
4回	CAD&3D利用 パンツかスカート・トルソー（レディースかメンズ）どちらかを選定し、CAD&3Dパターンメイキングを行う。（2103CAD室）	予習：パンツかスカート・トルソー生成（2103CAD室）復習：実物用布縫製（サンプル資料検討）（アパレル実習室、3303教室）	180分
5回	CAD&3D利用 ラグラン・トルソー（レディースかメンズ）どちらかを選定し、CAD&3Dパターンメイキングを行う。（2103CAD室）	予習：ラグラン・トルソー生成 パターン修正（2103CAD室）復習：実物用布縫製（サンプル資料検討）（アパレル実習室、3303教室）	180分
6回	全てのアイテムを総合したオリジナル作品に関する縫製仕様書作成（絵型、採寸数値、縫製箇所の図解）（2103CAD室）	予習：縫製仕様書（2103CAD室） 復習：服種素材（ボタン、ファスナー購入）	180分
7回	オリジナル作品（セットイン パンツ スカート ラグラン各種トルソーの合わせたアイテム）縫製（アパレル実習室）	予習：縫製仕様書（2103CAD室） 復習：縫製（アパレル実習室、3303教室）	180分
8回	オリジナルデザイン作品 セットイン（オリジナル）縫製（アパレル実習室）	予習：縫製仕様書（2103CAD室） 復習：縫製（アパレル実習室、3303教室）	180分
9回	オリジナルデザイン作品 パンツかスカート（オリジナル）（アパレル実習室）	予習：実物縫い（アパレル実習室、3303教室） 復習：修正は各自で確認	180分
10回	オリジナルデザイン作品 ラグラン（オリジナル）（アパレル実習室）	予習：実物縫い（アパレル実習室、3303教室） 復習：修正は各自で確認	180分
11回	縫製作品提出開始 no.1（予約制）（3303教室）点検（トップス）	復習 縫製直し NO.1	180分
12回	縫製作品提出開始 no.2（予約制）（3303教室）点検（ボトム）	復習 縫製直し NO.2	180分
13回	縫製作品提出開始 no.3（予約制）（3303教室）点検（ボタンホール、ボタン付け他）	復習 縫製直し NO.3	180分
14回	作品提出 2作品	準備 作品仕上げアイロン	180分
15回	作品返却 まとめ	復習 作品チェック	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目 ボディに装着させて、オリジナルデザイン作品課題（2作品プレゼンテーション）の講評を行い採点し返却する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	出席確認を行う
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	35%	ビデオ映像を撮り撮影を確認しながら採点をおこなう。
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	45%	作品の提出2作品
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

SewingⅠ～Ⅳ杉野学園、PATTERN MAKINGⅠ・Ⅱ杉野学園、グッドフィット・テクノロジーの知識と技術 佐藤隆三著
Fabric, form and flat pattern cutting Winifred Aldrich 著 Blackwell Science Ltd

■参考文献

NEW PATTERN BOOK No1-29、PATTERN BOOK No1-13、DOREME PATTERN BOOK No1-6、DOREME SUMMER SEMINAR 2012、2013、MEN'S WEAR PATTERN MAKING 杉野学園、インダストリアルパターンコース3年次のポートフォリオ

■オフィスアワー・研究室

木曜日 10:40～12:00 【連絡教室】3次元計測室（第2校舎2階）

■備考

モデル選定を2名選出する。モデルの3次元計測を行う。就活、教職課程期間公欠扱いとする。自宅作業CADクラウド奨励。

卒業制作Ⅱ（インダストリアル）

住野 雅子

4年 後期 インダストリアル必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

3次元計測器による消費者個人適合型商品工業生産創造システム（カスタマイジング クロージング システム）の活用方法を利用した卒業論文の研究課題をさらに追及する。体形を研究した成果から、フィット性・バランスの視覚的評価を学修するためモデル設定によるフィッティングを行う。学年の集大成として学外審査会を行い、4作品（動画形式）で卒業制作の口頭発表会を行う。卒業論文としてパターンの要綱を執筆する。

■到達目標（学修成果）

3Dモデリストとして、3次元体型解析に基づくパターン設計が出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

インダストリアルパターンコースの卒業認定・学位授与に関連する科目である。次世代におけるハイブリットなパターンナー育成のための専門知識の修得を目指す。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	後期シラバス予定 2作品の実物確認 前期プレゼン確認	予習：作品の確認とデザイン調整 復習：布を選んできると	180分
2回	学外審査会作品について。教材配布。（各自の縫製仕様書）スケジュールをまとめ発表	予習：デザインまとめ 復習：布を選び購入してくると	180分
3回	アイテム別分析を行う。オリジナルデザイン作品 CAD&3D セットイン・トルソー（レディースかメンズ）どちらかを選定し、CADパターンメイキングを行う。（2103CAD室）縫製仕様書作成（絵型、採寸数値、縫製箇所の図解）	予習：各自の授業計画 復習：サンプル縫製（アパレル実習室）	180分
4回	CAD&3D パンツかスカート・トルソー（レディースかメンズ）どちらかを選定し、CADパターンメイキングを行う。（2103CAD室）縫製仕様書作成（絵型、採寸数値、縫製箇所の図解）	予習：パンツかスカート・トルソー生成（2013教室） 復習：実物用布縫製（サンプル資料検討）（アパレル実習室）	180分
5回	CAD&3D ラグラン・トルソー（レディースかメンズ）どちらかを選定し、CADパターンメイキングを行う。（2103CAD室）縫製仕様書作成（絵型、採寸数値、縫製箇所の図解）	予習：ラグラン・トルソー生成 パターン修正（2103CAD室） 復習：実物用布縫製（サンプル資料検討）（アパレル実習室）	180分
6回	アイテムの合計を集計し、ヒストグラムで提出。各自の授業計画を進め、最終報告を行う。（2103CAD室）	予習：ヒストグラム作成 復習：工業パターンを完成させる（2103CAD室）	180分
7回	オリジナル作品（各種トルソーの合わせたアイテム）最終縫製（アパレル実習室）	予習：各種 パターン修正（2103CAD室） 復習：実物用布縫製（サンプル資料検討）（アパレル実習室）	180分
8回	ポスターDM 作品提出5作品（2103CAD室）	予習：仕上げアイロン 復習：撮影のための靴をそろえておく	180分
9回	スタジオ撮影 ヘアメイク講習会	予習：仕上げアイロン 復習：撮影のための靴をそろえておく	180分
10回	卒業論文要綱 コンセプト パターンについて（2103CAD室）	学外審査会のための準備	180分
11回	卒業論文要綱ハンガーイラスト 工業パターン（2103CAD室）	予習：要綱まとめ 復習：要綱まとめ	180分
12回	卒業論文要綱 費用 原型（2103CAD室）	予習：要綱まとめ 復習：要綱まとめ	180分
13回	プレゼンテーションによる卒業制作論文発表練習（2103CAD室）	発表練習	180分
14回	プレゼンテーションによる卒業制作論文発表（2103CAD室）	復習 要綱仕上げ	180分
15回	フィードバック 作品返却 まとめ（2103CAD室）	まとめ	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目 5作品 撮影しデータ返却し、一人ずつ縫製、デザイン、パターンについて採点し、返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	出席確認を行う
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%	ビデオ映像を撮り撮影を確認しながら採点をおこなう。
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%	作品の提出3作品
外部評価・検定試験結果	10%	学外審査会

■教科書

Sewing I～IV杉野学園、PATTERN MAKING I・II杉野学園

Fabric, form and flat pattern cutting Winifred Aldrich 著 Blackwell Science Ltd

■参考文献

NEW PATTERN BOOK No1-29、PATTERN BOOK No1-13、DOREME PATTERN BOOK No1-6、DOREME SUMMER SEMINAR 2012、2013、MEN'S WEAR PATTERN MAKING 杉野学園、インダストリアルパターンコースで製作した各自のポートフォリオ

■オフィスアワー・研究室

水曜日 12:30～13:30 3次元計測室（第2校舎2階）

■備考

SNSによる教室予約やフィッティング連絡を行う。映像制作 9月に撮影。

テキスタイルデザインV

土岐 千春

4年 前期 テキスタイル必修 (1単位 演習)

■授業の方針・概要

テキスタイル業界において自立した職業人として活躍できる人材になるよう、生地知識のまとめと商品化・流通について講師の企業実務に基づき業界の現状と今後の展望について解説する。実際のプランニングの実例を通し素材開発・デザインのポイントを修得する。

■到達目標（学修成果）

主要素材の設計方法が表現でき、目的にあったデザイン展開を自らのアイデアをもとに企画立案、提案、プレゼンテーションまで出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	テキスタイルデザイナーの役割と企画、生産の現状 SNS、ECと実店舗の関係性や商品化におけるポイント	予習：テキスタイルプランニングの業務内容についてリサーチする	60分
2回	主要素材の特徴と生産背景、国内の主な産地と素材の特徴 欧米と日本の服飾の歴史と主な技法・表現について	予習：国内産地の分布と特性についてまとめる	60分
3回	国内外のテキスタイル展示会の解説と業界の構成と流通、店頭と企画シーズン、トレンド予測について	復習：トレンド予測の基礎として定点観測、市場調査のポイントをまとめる	60分
4回	著名なテキスタイルブランドにおけるテキスタイルデザインの位置づけとファッションとの関係	予習：テキスタイルブランドについてリサーチする	60分
5回	素材の分析を通し原料の特徴、生産方法、生地の特徴と適した用途をまとめる ・天然繊維(羊毛・綿・麻)・化繊	予習：主要素材と特徴をまとめる	60分
6回	・スワッチシートの作成、素材分析、調査	予習：素材分析の方法、調査の手順をまとめる	60分
7回	・設計書、委託を前提とした依頼書の作成、適した用途を想定した絵図作成	予習：適した用途について画像などを集め具体的な表現が出来るようにする	60分
8回	・分析、調査した素材の発表と、用途の提案をプレゼンテーションする ※アクティブラーニング	復習：主要素材の特徴と実用的な用途をまとめる	60分
9回	【発注と生産】実際に生地の生産をする場合に設計書、依頼書に示す方法と相手への伝え方をロープレで身につける ※アクティブラーニング	予習：伝えること、確認することをまとめる	60分
10回	プリント、ジャカード、レースなどの意匠と後加工による表現について	予習：意匠素材の表現、生地の後加工についてリサーチする	60分
11回	SDGSの取組と現状、今後の展望について アップサイクル等SDGSのアイデアをグループワークで研究する ※アクティブラーニング	予習：SDGSについてリサーチする	60分
12回	言葉の表現とデザインの関係、画像、動画を含むプレゼンテーションと表現の伝え方	予習：研究発表のシナリオを作る	60分
13回	コンセプトマップの作成を通してテーマ設定やプレゼンテーションの方法、ビジュアル表現のポイントを解説	予習：他者に伝えるために必要な項目をまとめ資料を準備する	60分
14回	コンセプトマップのプレゼンテーション、相互評価 ※アクティブラーニング	復習：コンセプトの伝え方、ビジュアルの必要性についてまとめる	60分
15回	まとめ	復習：学修したことを振り返りまとめる	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題レポート提出、筆記試験について返却時に講評する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 適宜プリント配布

■参考文献 図書館内資料等

■オフィスアワー・研究室 テキスタイルデザイン研究室(3011) 火曜日(9:00~12:10)

■備考 テキスタイルデザインIVの単位を取得していること

卒業制作Ⅰ（テキスタイル）

田口 雅子 山川 智子

4年 前期 テキスタイル必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

卒業制作のためのテーマを決め、デザイン考案、制作プロセスや作品完成シミュレーションを行い、素材や技法を選択し、実物制作につながる過程を理解し、制作を行う。さらにPCを活用しデザイン考案、プレゼンテーションを行うことを方針とする。作品点数は年間シリーズで2点とポートフォリオとし、前期は1作品を制作する。

■到達目標（学修成果）

自らの卒業制作テーマにしたがってCGシミュレーション、素材・技法研究、制作プロセス、完成形をイメージするサンプル制作と実際の卒業制作作品を完成し、自分だけのオリジナル性の高いテキスタイル作品を完成させる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	卒業制作作品のテーマ、コンセプト、技法、素材についてリサーチ結果の面談（ディスカッション）および検討	（予習）卒業制作テーマ設定のためのリサーチを行う	180分
2回	コンセプトの具体化 デザイン修正	（予習・復習）リサーチの見直しを行い、デザインを具体的に作る	120分
3回	素材・技法の検討 調査・検討	（予習）表現のための技法研究（情報収集）	50分
4回	サンプル作成	（予習）表現のための素材研究（素材の収集）	50分
5回	サンプル作成 記録・比較	（予習）作品設計書を確認しておく	60分
6回	サンプル制作 再検討	（予習）サンプル作品設計書を確認しておく	45分
7～9回	サンプル検討 ディスカッション	（復習）テーマ・コンセプトの再構築	30分
10回	設計 材料調達	（復習）制作のためのスケジューリング工程の確認	45分
11回	イメージ、サンプル作品、制作工程等について講評会、企画・設計の再検討	（復習）サンプルと作品の現段階を振り返り検討する	45分
12回	卒業制作作品 設計 制作準備	（復習）サンプルの記録から実際への確認、再計算	60分
13～26回	作品制作	（復習）技法における素材の扱いや道具について確認する	30分
27回	作品制作 仕上げ	（復習）完成をイメージして客観的に観察する	30分
28回	プレゼンテーション準備	（復習）作品全体を確認する	45分
29回	前期作品発表会にてプレゼンテーション	（復習・予習）画像・素材を確認し、制作プロセスを整理し前期プレゼンの方法を考える	30分
30回	講評、後期に向けて	（復習・予習）作品、プレゼンを総合評価し、次作品に活かすようまとめる	60分

■フィードバックの方法（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

作品制作プロセスごとに講評をする

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

作品完成度 プレゼンテーション内容

■教科書

適宜プリント配布

■参考文献

テキスタイル・ファイバーアートアーティスト作品集、他大学・本コース卒業制作作品集

■オフィスアワー・研究室

月曜日（11：00～12：30）テキスタイルデザイン研究室（3011）

水曜日（10：40～12：10）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

・テキスタイルデザインコース科目3年次までの単位を取得していること

卒業制作Ⅱ（テキスタイル）

田口 雅子 山川 智子

4年 後期 テキスタイル必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

設定されたテーマに沿って2作品目の制作をする。制作におけるコンセプト設定から完成までのプロセスを振り返り、作品展示、口頭発表会に向け、これまで修得したPCスキルを活用してまとめていく。

■到達目標（学修成果）

テキスタイルデザイン・設計を始め実際の制作がイメージを的確に表現した作品制作を行い、自らの考えを他者に伝えるためのプレゼンテーション力を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	卒業制作2作品目のテーマ、コンセプト、技法、素材についてリサーチ結果の面談（ディスカッション）および検討	（予習）前期作品のテーマに繋がられる作品にするためのデザインを複数考案してくる	80分
2回	デザイン考案	（予習）テーマ・コンセプトに沿ってデザインや素材が選択できるようリサーチする	80分
3回	デザイン・素材・技法研究	（復習）客観的視点を持ちリサーチする	40分
4回	サンプル制作	（予習）リサーチ、サンプル素材の収集	40分
5回	サンプル検討 ディスカッション	（予習）制作ノートを確認	30分
6回	設計	（復習）設計書・計画書に沿った制作ができているか確認する	30分
7～24回	作品制作	（復習）設計書に沿った制作ができているか確認する	30分
25回	ポートフォリオ作成	（復習）制作ノートの確認	30分
26回	作品撮影、画像処理 要旨集の作成	（復習）テーマから制作までの画像素材の収集	30分
27回	CGプレゼンテーション準備	（復習）コンセプトから制作までの思考と作品制作のフィードバックをし、まとめる	200分
28回	CGプレゼンテーション準備	（予習）作品制作に伴う事項のフィードバックをし、まとめる。	540分
29回	作品仕上げとプレゼンテーション①	（予習）効果的なプレゼン方法と資料準備を行う	60分
30回	作品仕上げとプレゼンテーション②	（予習）効果的なプレゼン方法と資料作成を考え準備する	60分

■フィードバックの方法（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

作品・ポートフォリオ返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	作品完成度
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%	
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

- ・テキスタイルアーティストや素材を意識している著名なデザイナーのテキスタイルなどの作品及びリサーチ
- ・展示等を見学

■オフィスアワー・研究室

月曜日（11：00～12：30）テキスタイルデザイン研究室（3011）

水曜日（10：40～12：10）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

- ・集中授業あり（3日間）
- ・卒業制作口頭発表及び展示発表（作品2点・ポートフォリオ2冊）をする（2月上旬 4日間）
- ・卒業制作Ⅰ（テキスタイル）の単位を取得していること

卒業制作Ⅰ（プロダクト）

肉丸 美香子・野口 和美・大場 有希子・高橋 大夢

4年 前期 プロダクト必修 (4単位 実習)

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインコースの卒業制作に向け、各自のイメージを基にテーマを決定する。ファッションプロダクトデザインⅢ・Ⅳの授業内容を発展させ、スケジューリング、フローチャートの作成、プレゼンテーションを重ね、最終デザイン案を決定する。これらを通して企画力、デザイン表現力、伝達能力を徹底的に鍛える。作品制作と平行しポートフォリオの作成を行う。以上の内容をより効果的なものとするために、担当者として、日常的に、バッグ、帽子の製品開発・制作を行っている実務経験者による指導を行い学修していく。

■到達目標（学修成果）

作品制作のために徹底した資料収集とリサーチを行い、デザインの方向性を探りしっかりとしたコンセプトを構築できるような能力を身につける。リサーチから作品制作まで一貫した流れに基づく物作りが可能となる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業認定単位となる。

ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス Ⅰ卒業制作(個人) 個別面談	予習：シラバスを理解する	60分
2回	① 卒制(個人)の第1回プレゼンテーション (コンセプト含む)	予習：プレゼンテーションの準備	60分
3回	② 個別面談：コンセプトの見直し、デザイン修正 (ディスカッション)	復習：コンセプトの見直し、デザイン修正を行う	180分
4回	③ 個別面談：コンセプトの見直し、デザイン修正 (ディスカッション)	復習：コンセプトの見直しデザイン修正を行う	60分
5回	④ 第2回プレゼンテーション：不織布モックアップ (講評とフィードバック)	予習：プレゼンテーションの準備	180分
6回	⑤ 個別面談：デザイン決定	予習：各自使用素材や提案方法を検討する	60分
7回	⑥ デザイン修正	復習：各自使用素材や提案方法を検討し、デザイン修正を行う	60分
8回	⑦ デザイン修正	復習：各自使用素材や提案方法を検討し、デザイン修正を行う	60分
9回	⑧ 個別面談、進行状況チェック（フィードバック）	復習：作品修正など発注に向けて最終確認を行う	60分
10回	発注前最終チェック① デザイン画、製図、モックアップ、材料、サンプル、仕様書を完成させる	復習：作品修正など発注に向けて最終確認を行う	60分
11回	発注前最終チェック② デザイン画、製図、モックアップ、材料、サンプル、仕様書を完成させる	復習：作品修正など発注に向けて最終確認を行う、プレゼンテーションの準備	60分
12回	発注前プレゼンテーション（講評とフィードバック）	復習：作品修正など発注に向けて最終確認を行う	30分
13回	外部工場へ発注のための打ち合わせ	復習：作品修正など発注に向けて最終確認を行う	30分
14回	Ⅱ卒業制作(グループ) ① グループ編成 方向性についての話し合い、スケジューリング	習：グループ内での理解を深め、各自コンセプト、イメージソース、ラフ案の準備	30分
15回	② グループ面談、コンセプト立案 (ディスカッション)	予習：グループ内での理解を深め、各自イメージソース、ラフ案の準備	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%	作品の完成度とプレゼンテーション能力
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

『鞆・ハンドバッグ・小物』（社団法人日本皮革産業連合会）

■参考文献

- ・BAG DESIGN -A HANDBOOK FOR ACCESSORIES DESIGNERS (FASHIONARY)
- ・工業用ミシンと漉き機の基本操作とメンテナンス(STUDIO TAC CREATIVE)
- ・ファッション工芸講座Ⅰ帽子基礎編（文化出版局）・繊維の種類と加工が一番わかる（技術評論社）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 13:00～14:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎4階 3409)

■備考

卒業制作Ⅰの授業は月曜日と火曜日と水曜日の週3回行っている。このシラバスは水曜日の内容である。月曜日は、8回は帽子の授業、7回と火曜日の卒業制作の授業は水曜日に準ずる。東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。月曜日、火曜日のシラバスは最初の授業時に掲示する。

卒業制作Ⅱ（プロダクト）

肉丸 美香子・野口 和美・大場 有希子・高橋 大夢

4年 後期 プロダクト必修 (5単位 実習)

■授業の方針・概要

グループ制作によりバッグの提案を行なう。グループごとにテーマを設定し、コンセプトに基づきデザインし制作を行なう。ファッションプロダクトデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの授業内容を発展させ専門課程各科目を通して学んだ全ての知識、技術、手法を駆使し『作品（プロットタイプ）』の制作に重点をおき、コマースポスター・ポートフォリオ制作を行なう。以上の内容をより効果的なものとするために、担当者として、日常的に、バッグ、帽子的製品の開発・制作を行っている実務経験者の指導の基、学修していく。

■到達目標（学修成果）

自らの考えを他者に伝えるコミュニケーション能力と共にプレゼンテーション力、更にコンセプトを現実のデザインの中に的確に表現できる力を身に付けることが可能である。指導教員やグループ内のディスカッションを重ねる事により、自身の考えを他者にしっかり伝えるコミュニケーション能力が大きく飛躍する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業認定単位となる。
ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス Ⅰ卒業制作(グループ) ① 各グループでスケジューリング	予習：シラバスを理解する 復習：グループのスケジュールに合わせ、各自の作業を確認、スケジューリング	60分
2回	② 不織布モックアップ制作	復習：モックアップを完成させる	60分
3回	③ プレゼンテーション：不織布モックアップ (講評とフィードバック)	予習：プレゼンテーションの準備 復習：修正・確認を行う	60分
4回	デザイン修正、発注するバッグの決定	予復習：ファーストサンプル制作	60分
5回	発注するバッグの製図、不織布モックアップ	予復習：ファーストサンプル制作	60分
6回	発注前最終チェック（フィードバック）	予復習：ファーストサンプル制作	60分
7回	外部工場へ発注の為の打ち合わせ	予習：プレゼンテーションの準備 復習：修正・確認を行う	60分
8回	他のバッグの製図、型紙、モデル制作（不織布）	復習：最終デザイン画、製図	60分
9回	他のバッグの制作（フェルト）	予習：ポスター制作の構図を考える	60分
10回	他のバッグの制作（フェルト）	予習：イメージボード、デザイン画、不織布によるモックアップ、素材試作、リサーチ資料の準備	60分
11回	Ⅱポートフォリオ制作 ポートフォリオ制作、ポスター案	予習：プレゼンテーションの準備	60分
12回	イメージ、製図、カラーバリエーション、デザインバリエーション	予習：写真撮影し、ポスターの構図を考える(ラフスケッチ)。 テーマ、コンセプトを確認してまとめる	60分
13回	イメージ、製図、カラーバリエーション、デザインバリエーション	復習：データを完成させる	30分
14回	最終チェック	予習：データの確認 復習：修正し再度チェックを受ける	60分
15回	プレゼンテーション 外部評価 課題作品に対する講評	予習：プレゼンテーションの準備	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%	コミュニケーション能力を含む
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	20%	作品の完成度とプレゼンテーション能力

■教科書

『鞆・ハンドバッグ・小物』（社団法人日本皮革産業連合会）

『レザーソムリエ資格試験公式テキスト』（日本革類卸売事業協同組合）

■参考文献

・新かばん・バッグの商品知識(エフ・ワークス)、BAG DESIGN(FASHIONARY) ・繊維の種類と加工が一番わかる（技術評論社）
・工業用ミシンと漉き機の基本操作とメンテナンス(STUDIO TAC CREATIVE) ・ファッション工芸講座Ⅰ帽子基礎編（文化出版局）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 13:00～14:00

【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎4階 3409)

■備考

卒業制作Ⅰの授業は月曜日、火曜日、水曜日、金曜日の週4回行っている。このシラバスは水曜日の内容である。月曜日は、8回は帽子の授業、残りの7回と火曜日、金曜日授業は水曜日の授業に準ずる。東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。月曜日、火曜日、金曜日のシラバスは最初の授業時に掲示する。

グローバル・マネジメント特論Ⅱ

山田 晶子

4年 前期 マネジメント必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本授業では「今、グローバル社会で求められている最も重要な課題は何か」を、社会潮流をベースとしつつ、グローバル・マネジメント戦略の在り方を探究していきます。応用編として、今日の生活者にみる行動様式や、消費に対する意識変化を読み解き、ファッションビジネス環境において、企業に期待される役割、グローバルなビジネス展開のための、重要事項を構造的に学びます。担当講師の実務経験や知見を活かした時代性ある事例共有と、実感値の醸成を主眼とした、アクティブラーニングによる授業運営を実施してまいります。

■到達目標（学修成果）

本授業を履修し、学修の目標を達成できた結果、課題の背景や構造をつかみ、既存の枠組に捉われないこと、グローバル社会における変化に適応しながら、本質的・有機的な方法を導き出す考え方をトレーニングすることにより、応用編としての21世紀型グローバル市場の理解、今後のファッションビジネスの方向性や組織の有効性ある捉え方、起業家としての着眼点・立案力が修得できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目であり、ファッションビジネス・マネジメントコースのディプロマポリシーに即した必修専門科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション グローバルマネジメントの実践課題の諸相	予習：シラバスの確認 授業内容：学ぶべき内容とベースの共有	30分
2回	グローバル・マネジメント～実践への考え方とリソース(1) グローバル市場と構造的戦略① <事例研究>EURブランドⅠ	復習：グローバルブランドの社会潮流と商品戦略の関係性	30分
3回	グローバル・マネジメント～実践への考え方とリソース(2) グローバル市場と構造的戦略② <事例研究>組織の構造	復習：グローバルブランドの組織構造と戦略の関係性	30分
4回	グローバル・マネジメント～実践への考え方とリソース(3) グローバル市場と構造的戦略③ <事例研究>EURブランドⅡ	復習：グローバルブランドの経営理念と複合的ビジネスモデル	30分
5回	実習「レポート作成」 演習へのベースを整理確認するため、テーマに沿って着眼点の整理	予習：演習へのベースとしての内容整理と確認	30分
6回	グローバル時代の戦略的経営(1) グループディスカッション 第5回のフィードバック、「異文化、グローバリゼーション」	復習：グローバルにおけるビジネス文化の相違点	30分
7回	グローバル時代の戦略的経営(2) グループディスカッション 「EUR/SPAブランドの戦略、持続可能な取組事例共有」	復習：生活者ニーズの実現と社会潮流からの持続可能な取組事例確認	30分
8回	グローバルマネジメントⅡ演習(1)/21世紀のファッションビジネス グループワーク（社会潮流共有～実践への考え方とリソース）	予習：ビジネスへの骨格づくり 復習：自グループの意見確認	30分
9回	グローバルマネジメントⅡ演習(2)/21世紀のファッションビジネス グループワーク（ファッションビジネス具現化への5W2H）	予習：テーマへの5W2H考案 復習：自グループのテーマ深掘り	30分
10回	グローバルマネジメントⅡ演習(3)/21世紀のファッションビジネス グループワーク（パーパスとアントレプレナーシップ醸成）	復習：マクロ視点とミクロ視点によるファッションビジネス構築	30分
11回	グローバルマネジメントⅡ演習(4)/21世紀のファッションビジネス グループワーク（ファッションビジネスとしての深掘り）	予習：全体観およびリアリティあるファッションビジネス創造	30分
12回	グローバルマネジメントⅡ演習(5)/21世紀のファッションビジネス グループワーク（持続可能と企業のミッション、発表準備）	予習：プレゼンテーション準備	30分
13回	グローバルマネジメントⅡ発表(1) プレゼンテーション 各班より発表（生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成）	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30分
14回	グローバルマネジメントⅡ発表(2) プレゼンテーション 各班より発表（生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成）	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30分
15回	グローバルマネジメントⅡ発表(3) プレゼンテーション 各班より発表、プレゼンテーション内容のフィードバック	復習：講評から、全体観とポイントの整理 期末レポート作成・提出	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーションとレポート実施（期中・期末）に関して、第6回、第15回にて、確認と講評を行ないます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書はなし。毎回、学習資料を配布します。

授業形態は「配布資料を基にパワーポイントで講義～グループディスカッション」となります。

■参考文献

授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネスマネジメント研究室（第4校舎3階/授業終了後）

■備考

毎回、配布する学習資料を持参してください。授業の進行状況により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

店舗開発マネジメント論

田邊 潤一 ・ 鈴木 康久

4年 前期 マネジメント必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

- ・本科目は「店舗開発」における店舗新規出店のための出店地域の市場調査、立地と物件の決定、店舗の設計から開業までの一連の実務を基に実践的な学習を行う科目です。本科目では店舗開発目線で計画と管理、MD・VMD計画策定、店舗設計、事業計画書作成等の模擬演習を行います。また本科目ではグループワーク等アクティブラーニングを主体とした授業運営となります。加えて、VMDプラン策定を含むストア計画の部分は連携先企業（VMD業者）が参画し、産学連携型に推進していく授業です。担当教員の長年の実務専門分野（田邊-VMD計画、店舗創造、改装計画、鈴木-マーケット・市場調査・ストアプラン構築）を活用した授業内容及び運営となります。実際のストア計画のデザイン施工業者と小売企業の共業を再現しながら実践的な学習効果を目指しています。また最終回にグループプレゼンを行います。

■到達目標（学修成果）

- ・実施計画と事業計画作成、立地決定、ストア計画、社長プレゼンまで、店舗開発業務全体が実務レベルで学べます。
- ・アクティブラーニングを通じて、自主性、コミュニケーション能力、強調性、ディベート力の醸成が図れます。
- ・グループワークを軸に、価値創造と利益志向力、全員で同じ方向を目指すマネジメント力、プレゼン力の向上を目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、あらゆるファッションビジネスで活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回 田邊 鈴木	イントロダクション 授業概要・事業方針（演習に取組む際の前提条件）の発表	予習：シラバスの確認 復習：本日の内容の振り返り	30分 30分
2回 田邊	私たちの事業計画の議論と方向性（コンセプト）の決定 グループワーク：店舗開発コンセプトとロードマップ策定	予習：事業計画、ロードマップ事前構想 復習：本日の取組内容の精度アップ	30分 30分
3回 田邊	マーチャンダイジング計画①／顧客設定 グループワーク：ターゲット顧客設定、サービス方針設定	予習：顧客、サービス設定の事前構想 復習：本日の取組内容の精度アップ	30分 30分
4回 田邊	マーチャンダイジング計画②／MD設定-1 グループワーク：取扱MD、価格帯、品揃え方針の設定	予習：MD設定の事前構想 復習：本日の取組内容の精度アップ	30分 30分
5回 田邊	マーチャンダイジング計画③／MD設定-2 グループワーク：価格帯、品揃え方針、売上予算の設定	予習：価格帯と売上予算の事前構想 復習：本日の取組内容の精度アップ	30分 30分
6回 田邊	立地設定 グループワーク：立地と物件の調査と選定、決定	予習：出店地域、立地の事前現地調査 復習：本日の取組内容の精度アップ	120分 30分
7回 鈴木	ストアプラン作成の模擬演習（個人・グループワーク） コンセプト、ブロックアウトプラン、導線計画	予習：事前課題の個人ワーク 復習：配布資料の振り返り	40分 30分
8回 田邊	ストア計画① グループワーク：MDの分類と配置、什器レイアウト策定	予習：インプット事項の整理とまとめ 復習：本日の取組内容の精度アップ	120分 30分
9回 田邊	ストア計画② グループワーク：デザイン・施工業者へのインプット	予習：インプット事項の整理とまとめ 復習：本日の取組内容の精度アップ	30分 60分
10回 田邊	ストア計画③ グループワーク：売場図面作成、展開方針の策定	予習：商品展開イメージの事前構想 復習：図面、棚割の精度アップ	30分 30分
11回 田邊	ストア計画④ グループワーク：VMDの立案とVMDツールの選定	予習：VMDイメージ・ツールと演出事前構想 復習：本日の取組内容の精度アップ	30分 30分
12回 田邊	ストア計画⑤ グループワーク：内装・外装デザインの立案と予算化	予習：内装・外装イメージの事前構想 復習：内装・外装デザインの精度アップ	30分 30分
13回 田邊	事業計画書作成① グループワーク：実際の事業計画書に落とし込み	予習：事業計画書の予習と事前構想 復習：本日の取組内容の精度アップ	60分 30分
14回 田邊 鈴木	事業計画書作成② グループワーク：事業計画と計画書の辻褄調整・利益確認	予習：マネタイズ可能か否か判定 復習：本日の取組み内容の精度アップ	60分 30分
15回 田邊 鈴木	社長へのプレゼン グループ発表：店舗開発計画のプレゼンと講評	予習：社長プレゼン内容の整理と調整 復習：授業全体の振り返り	120分 15分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回演習を基本とし、授業時間内での取組み、演習の取組姿勢、各プロセス及び最終プレゼンの内容で成績評価します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

成果としてのストアプラン、事業計画書の内容を
主要な評価材料とします。

■教科書 指定教科書なし。適宜参考資料を配布します。

■参考文献 必要に応じて随時案内します。

■オフィスアワー・研究室 出校日：水曜日 FB研究室：第4校舎4階(4035教室)にて16:20～17:00まで

■備考 2回以降はグループ毎の進捗状況や事業計画内容によりグループ毎で授業内容の順番を柔軟に組む場合があります。

ファッションMD 評価システム

長瀬 泰典

4年 前期 マネジメント必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

本科目では、バリューチェーン全体を通してファッション・MDの業務プロセスを評価する手法を、実務・実践型で取り組む。また、担当教員の実務経験や知見を活かした授業運営を軸としており、ファッション業界において必要不可欠なサプライチェーン全体を俯瞰して捉え、最終消費者へ販売するまでプロセスを具体的に理解し、外部環境の変化と共に変わりゆく業界をPDCAプロセスで自ら新しいアイデアを産み出す必要性が今後重要である事を習得する。さらに、ここ数年必要不可欠となりつつある持続可能性な環境経営の目線も加えつつ、将来を見据えた業界標準知識にも触れていく。なお、本科目ではマナバを使用しICT活用による授業運営を行っている。

■到達目標（学修成果）

ファッション業界をバリューチェーンの視点で捉えMD評価システムの必要性を説明する。その結果、PDCAプロセスを用いて常に変化しながら業務遂行を行う重要性を理解することを到達目標とする。また、激変していくファッション業界の変化をどのように捉え、何が重要であるかを自ら考え行動できる実践力を身につけることを到達目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目で、また卒業要件科目です。最終仕上げ段階であり、卒業時に、他の科目と合わせ、ファッションに関する業務を深く理解することができるようにする。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ファッション業界全体の流れをバリューチェーン目線で捉える	予習 バリューチェーンとは何かを調査 復習 ファッション業界のバリューチェーンを整理する	30分
2回	サプライチェーンマネジメントシステムの実態（上）	復習 サプライチェーンマネジメントシステムを商品との関係性から理解する	30分
3回	サプライチェーンマネジメントシステムの実態（下）	復習 サプライチェーンマネジメントシステムを商品との関係性から理解する	30分
4回	アパレル・商社・OEM・ODMの関係性と業界構成	予習 言葉の定義を調査する 復習 それぞれの役割と存在意義を理解する	60分
5回	MDプロセス・企画の仕組み	復習 シーズンを通じたMDプロセスを理解する	45分
6回	MDプロセス・設計の仕組み（ゲスト講師による講義）	復習 シーズンを通じたMDプロセスを理解する	45分
7回	アパレルロジスティックスの仕組み	予習 言葉の定義を調査する 復習 消費行動とロジスティックスの関係性を理解する	60分
8回	サプライチェーンの課題と解決策	予習 7回までの講義を通して自分なりに課題を抽出する 復習 課題をとおして解決策を考える	60分
9回	持続可能性とサプライチェーン（前半）	復習 持続可能性とは何かを理解した上で、業界内の課題を把握する	45分
10回	持続可能性とサプライチェーン（後半）	復習 課題を把握した上で、アパレル企業としてどのように対応していくかを考える	45分
11回	サプライチェーンにおけるテクノロジーの成長	復習 10回までの講義をベースに、テクノロジーの成長を通して業界の変化を理解する	45分
12回	アパレル業界と環境経営の関連性	復習 アパレルビジネスと環境の関係性を理解する	45分
13回	ステークホルダーとアパレル業界の関係性（ゲスト講師による講義）	復習 外部の団体（NGO・NPO）等との業界の関係性を理解する	45分
14回	これからのファッション業界（上）	復習 業界目線で未来を考えた上で、自分自身で方向性を予測する	45分
15回	これからのファッション業界（下）	予習 授業を通して今後の業界の未来を自分なりに考えを纏める	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業終了後に振り返りを学内システム（マナバ）にて提出の上、フィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて授業内でレジュメを配布。

■参考文献

必要に応じて、その都度授業内で提示します。

■オフィスアワー・研究室

授業時間の前後30分間 講師控え室に待機

■備考 なし

卒業論文Ⅰ（マネジメント）

鈴木 康久

4年 前期 マネジメント必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

コース専門課程を中心とした4年間の学習の集大成として本科目が位置付けられます。卒業論文Ⅰでは論文構成や仕組みの確認、また企業研究手法にフォーカスし、教材テキストや資料を基に体系的に論文の意義や役割や論文のフレームワーク全般を学習していきます。後半より、テーマの抽出、執筆ポイント及び情報収集の手法を学習、最終的に学生各々の卒業論文の研究テーマの主題確定及び研究計画書の策定を目指します。一部外部講師を招聘し、卒業論文に対する理解の深化を図っていきます。

授業運営の一部にグループワークやディベートを通じたアクティブラーニングを取入れ、理解の深化を目指します。

■到達目標（学修成果）

- ・論文構成やその研究展開手法、執筆に向けた各種調査方法や先行研究等の情報収集の手法を習得できます。
- ・論文執筆の具体的な取組みを通じて論理的（ロジカルシンキング）な思考力を醸成できます。
- ・アクティブラーニングを通じて、自主性、コミュニケーション能力、強調性、ディベート力の醸成が図れます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目でファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 全体スケジュールや要点の確認、ガイダンス	予習：シラバスの確認 復習：配布資料の振り返り	30分
2回	ファッションビジネス研究① 要約、ポイント確認、グループワーク、ディベート	予習：パート①の事前学習 復習：各自の課題整理	40分
3回	ファッションビジネス研究② 要約、ポイント確認、グループワーク、ディベート	予習：パート②の事前学習 復習：各自の課題整理	40分
4回	ファッションビジネス研究③ 要約、ポイント確認、グループワーク、ディベート	予習：パート③の事前学習 復習：各自の課題整理	40分
5回	ファッションビジネス研究④ 要約、ポイント確認、グループワーク、ディベート	予習：パート④の事前学習 復習：各自の課題整理	40分
6回	研究対象の考察 グループワーク、ディベート	予習：事前課題によるワーク準備 復習：各自の課題整理	60分
7回	卒業論文制作の心得についてガイダンス 研究・論文の意義や執筆に向けた心得	予習：次回の課題に対する事前調査 復習：配布資料の振り返り	40分
8回	卒業論文の作成指針 ルール確認、ポイント学習	予習：自身の研究対象の調査・分析 復習：配布資料の振り返り	40分
9回	図書館の活用について 図書館研修、論文検索、資料検索	予習：自身の研究対象の調査・分析 復習：配布資料の振り返り	40分
10回	先行研究・過去の卒論調査	予習：自身の研究対象の調査・分析 復習：各自の研究対象のまとめ	40分
11回	卒業論文：論題・副論題の確認と発表①	予習：①の発表準備 復習：配布資料の振り返り	40分
12回	卒業論文：論題・副論題の確認と発表②	予習：②の発表準備 復習：配布資料の振り返り	40分
13回	卒業論文：研究計画策定①	予習：研究計画書の準備 復習：各自の課題整理	60分
14回	卒業論文：研究計画策定②	予習：研究計画書の準備 復習：各自の課題整理	60分
15回	卒業論文：研究計画書のプレゼンテーション	予習：プレゼン準備 復習：前期における各自の論点整理	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題に対するグループワークや個人ワーク、又、個人研究研究に対して個別指導を通じて各フィードバックを行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書あり 大村邦年著 「ファッションビジネスの進化」 晃洋書房
また必要に応じ学習資料を随時配布していきます。

■参考文献

授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

授業前後1時間、4035教室

■備考 授業の進行状況や招聘する外部講師の都合により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

卒業論文Ⅱ（マネジメント）

鈴木 康久 山田 晶子

4年 後期 マネジメント必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

コース専門課程を中心とした4年間の集大成として本科目が位置付けられます。卒業論文Ⅱでは、Ⅰに確定した卒業論文主題に対する具体的な研究・調査の推進、制作を遂行していきます。計画に基づいた文献や資料収集、市場調査、企業研究、個別データ収集を行いながら論文制作完成を目指します。特に企業研究にフォーカスし、自身の論点を明確化させていきます。後半より査読を通じた論点の整理、平行しながら論文プレゼン発表の資料制作、プレゼン準備を行いながら最終形にまとめ上げ、具体的にプレゼン発表や展示を行い、個々に制作された論文の多面的な確認・評価を行っていきます。

■到達目標（学修成果）

- 論文制作過程全体を通じて、情報収集・調査手法、具体的な論文構成知識や執筆ポイント等の実践的能力習得を図ります。
- 自主的かつ長期に渡る計画的取組みを通じて、前期に学んだロジカルシンキングの応用力を養えます。
- 企業研究を通じたコミュニケーション能力向上や実践的な企業研究手法の知識習得が図れます。
- 総合発表に向けた資料作成やディベートを通じてプレゼン力の醸成を図る事ができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目で、ファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回 鈴木・山田	オリエンテーション 全体スケジュールや要点の確認	予習：シラバスの確認 復習：前期の研究計画書のチェック	30分
2回 鈴木・山田	卒業論文 企業研究① 調査・研究、個別ミーティング	予習：研究先企業のリストアップ 復習：企業概要の確認	40分
3回 鈴木・山田	卒業論文 企業研究② 調査・研究、個別ミーティング	予習：研究先企業の調査 復習：各自の個別課題の整理	40分
4回 鈴木・山田	卒業論文 企業研究③ 調査・研究、個別ミーティング	予習：研究先企業の調査 復習：各自の個別課題の整理	40分
5回 鈴木・山田	卒業論文 制作ポイント確認 調査・研究、個別ミーティング	予習：制作ポイントの整理と資料確認 復習：各自の課題整理	40分
6回 鈴木・山田	卒業論文 中間チェック① 提出⇒査読、プレゼン資料制作、個別ミーティング	予習：査読準備 復習：各自の個別課題の整理	40分
7回 鈴木・山田	卒業論文 中間チェック② 提出⇒査読、プレゼン資料制作、個別ミーティング	予習：査読準備 復習：各自の個別課題の整理	40分
8回 鈴木・山田	卒業論文 プレゼン資料計画① プレゼン資料作成、プレゼン準備、個別ミーティング	予習：プレゼンコンテンツ整理 復習：各自のプレゼン資料の課題整理	40分
9回 鈴木・山田	卒業論文 プレゼン資料計画②、査読確認① プレゼン資料作成、プレゼン準備、個別ミーティング 査読戻りミーティング	予習：プレゼン用調査資料の整理 査読戻りの読み込み 復習：各自の査読課題整理	60分
10回 鈴木・山田	卒業論文 プレゼン資料計画③、査読確認② プレゼン資料作成、プレゼン準備、個別ミーティング 査読戻りミーティング	予習：プレゼンの全体概要の整理 査読戻りの読み込み 復習：各自の査読課題整理	60分
11回 鈴木・山田	卒業論文 プレゼン計画④ プレゼン資料作成、プレゼン準備、個別ミーティング	予習：プレゼンの全体概要の整理 復習：各自のプレゼン資料の課題整理	60分
12回 鈴木・山田	卒業論文 プレゼン計画⑤ プレゼン資料作成、プレゼン準備、個別ミーティング	予習：プレゼンの全体概要の整理 復習：各自の総合的な課題整理	60分
13回 鈴木・山田	卒業論文：コース内プレゼン・ポイント確認①	予習：プレゼン準備・対象論文要旨確認 復習：各自の総合的な課題整理	60分
14回 鈴木・山田	卒業論文：コース内プレゼン・ポイント確認②	予習：プレゼン準備・対象論文要旨確認 復習：各自の総合的な課題整理	60分
15回 鈴木・山田	卒業論文：学習のまとめ、全体振り返り、記録	予習：制作物意見交換準備 復習：論文の総合確認・整理	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

企業研究、調査、査読、論文制作、プレゼン資料作成等において個別指導を通じて、各種フィードバックを行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書 指定教科書なし、必要に応じ学習資料を配布します。

■参考文献 授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室 授業前後1時間、4035 教室

■備考

授業の進行状況により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

顧客関係論

栗原 隆人

4年 前期 イノベーション必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

日本社会の成熟化とテクノロジーの進化、若者を中心とした価値観の変化により、どのような企業にとっても、「何を売るか」よりも、「顧客とどのような関係性を築くのか」が重視される時代が来ている。ファッションを中心とした各企業がどのような取り組みをしているのか、これから何をしていくべきなのか、自分にはなにができるのか?といった点について、講義と演習を通じて学んでいく。

■到達目標 (学修成果)

- ①顧客との関係性 (カスタマー・リレーションシップ) マネジメントの基本的な考え方を理解している
- ②企業と顧客の関係性を構築するための技術 (SNS の活用、データマーケティングの基礎、NPS (ネットプロモータスコア) 等) についての理解をしている
- ③企業と顧客との関係性に関しての大きな社会的な流行/重要なトピックを理解しており、自分で柔軟な発想をもってアイデアを考えられる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目・学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	オリエンテーション・授業計画・小ディスカッション「もし自分がファッションブランドの社長なら、顧客との関係を深めるためにどんな取り組みをするか?」	左記ディスカッションテーマについてアイデアを考えてくること。当日プレゼンを行う	30分
2回	討議テーマ「顧客とは何か?顧客からファン、パートナーへ」 顧客というものの定義が変わりつつある。顧客とは企業にとって何なのか、考えなくてはいけないことは何かを考察する	復習 レポート提出	20分
3回	討議テーマ「ブランドとは何か?」 ブランドという顧客と企業の関係性の間に存在する概念について理解し、議論する	復習 レポート提出	20分
4回	討議テーマ「ビジネスとは何か?P2P ビジネスの最新」 ビジネスとは何かという概念論から、ファッションブランドの選びうる選択肢について議論する	復習 レポート提出	20分
5回	先端事例紹介「カンヌ国際クリエイティブアワード」 国際的な社会潮流として今どのような取り組みが話題なのかを動画を通じて紹介。これからどのような流れが日本にやってくるのかを議論する	復習 レポート提出	20分
6回	先端事例紹介「D2C ブランド」 D2C とは何か。テクノロジーを目的にせず顧客との関係性をどう作っていくべきか	復習 レポート提出	20分
7回	先端事例紹介「ラグジュアリーブランド」 一般的なファッションブランドよりもより顧客関係性を重視しているラグジュアリーブランドにおける取り組みを紹介する	復習 レポート提出	20分
8回	先端事例紹介「ファッション雑誌」 ファッション雑誌自体も、その存在意義を大きく問われている。企業としてファッション雑誌をどのように捉えてどう使うのか?実際の雑誌側の取り組みを紹介し議論する	復習 レポート提出	20分
9回	先端事例紹介「サステナブル」と顧客 サステナブルとは何か。顧客にとってのサステナブルと、企業にとってのサステナブル。ESG 投資の背景になるものとは	復習 レポート提出	20分
10回	調査ノウハウ「顧客インタビュー」 顧客が本当に求めているものを見つけるための調査ノウハウを紹介し、実際に実施してみることによってインサイトを発見する	自主調査 (インタビュー) 実施、レポート提出	60分
11回	調査ノウハウ「カスタマージャーニー」 顧客が本当に求めているものを見つけるための調査ノウハウを紹介し、実際に実施してみるによってインサイトを発見する	CJM 作成、提出	60分
12回	プレゼンテーション準備① 「もし自分がファッションブランドの社長なら、顧客との関係を深めるためにどんな取り組みをするか?」 テーマ設定/CJM 作成/インサイト発見	事前にテーマ設定	60分
13回	プレゼンテーション準備② 演習/プレゼンテーションのための分析/考察	事前に調査・分析を実施	60分
14回	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実施準備	60分
15回	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実施準備	60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

各回レポートは次回の授業時に返却、講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	ディスカッションにおける積極性
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	レポート: 30% 最終プレゼンテーション 40%
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書 特になし

■参考文献 特になし

■オフィスアワー・研究室

初回授業で指示する。連絡: 教務課

■備考

いくつかの先端事例紹介では、実際に企業において取り組みをしている方をゲスト講師として招聘する

ファッションテック論

五月女 由紀子

4年 前期 インノベーション必修 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

ファッション・テクノロジー（ファッションテック）の活用によるファッション業界の活性化が注目されています。日本においてもDX（デジタルトランスフォーメーション）やデータ分析の必要性が問われている中、ニューノーマル時代のファッション業界に沿ったテクノロジーの進化、データサイエンスとAI、3DCGの知識を深めます。授業は、ファッションテック関係の実務家によるオムニバス形式の講義で行います。ファッション業界の商品企画および生産のデジタル化による効率化、モバイルやWEBを中心としたデジタル消費者起点での購買の利便性を考えていきます。3年流通イノベーションゼミで得た知識のブラッシュアップから未来構想まで、最後には個人でのイノベティブなプレゼンテーションを実施します。

■到達目標（学修成果）

ファッションビジネスの変革期における、新しいビジネス提案ができ、イノベティブな発想をもつことを目標とします。将来の自分の職業や「卒業論文」のテーマ策定を目指します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ニューノーマル時代のファッションビジネスの構造転換 ーファッションテックの基本的な理解ー	予習：シラバスを読む	30分
2回	ファッションビジネスのDX（デジタルトランスフォーメーション）総論	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
3回	アパレル業界の生産管理のデジタル・プラットフォーム ーAYATORIのサービスー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
4回	AI（人工知能）によるファッショントレンドの分析 ー#CBKのサービスー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
5回	ファッションデジタル商品企画の未来 ー3DモデリングとCGの世界ー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
6回	ZOZOのアパレル生産DX ー体型ビッグデータによるマルチサイズとオーダーメイドー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
7回	Eコマースのデータ分析① ーGoogle Analytics 4 新解析ツールの解説ー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
8回	Eコマースのデータ分析② ーSEO（検索エンジン最適化）の概念と解説ー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
9回	中国のデジタル社会の実装化 ーアフターデジタルの世界ー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
10回	キャッシュレス社会の発展 ー世界のキャッシュレス事情と日本の比較ー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
11回	VR・メタバースなど仮想空間のファッションの未来 ーファッションデザイナーのNFT作品ー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
12回	ビューティテック（アイスタイル） ー海外の美容におけるAIテクノロジー情報ー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
13回	インタラクティブ動画技術 Tig の導入事例 ーファッションECとの取り組みー	復習：考察事例について振り返り、課題レポートを作成する	30分
14回	まとめ：未来のファッションテックビジネス：個人発表とフィードバック①	まとめの発表をすることで、授業全体を振り返る	120分
15回	まとめ：未来のファッションテックビジネス：個人発表とフィードバック②	まとめの発表をすることで、授業全体を振り返る	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業後に毎回マナバに課題を提出する。教員からのフィードバックや助言などをしていき、最終的には各学生が考えるファッション業界の未来をファッション業界の担当者へのプレゼンテーションを行い、評価を確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	20%
外部評価・検定試験結果	20%

■教科書

必要時に資料を配布します。

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・流通イノベーション実習室（3207 教室）オフィスアワーについては授業初日に伝えます。

■備考

特になし

卒業論文Ⅰ（イノベーション）

五月女 由紀子・菊原 政信

4年 前期 イノベーション必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

3年流通イノベーションゼミで学んだファッション業界のイノベーションの知識を基に、4つのグループに分けてグループワークから始めます。「Eコマース」「リテールDX」「デジタル・マーケティング」「ファッションテック」という「大分類」からグループワークを行い、学生同士で「大分類」から「中分類」に落としこみキーワードを抽出していくディスカッションを行います。グループワークの中から参考文献や最新の記事などを共有していき、次のステップとして、「小分類」のテーマとして個々の興味・関心を決め、卒業論文に向けて焦点を定めます。その後、卒業論文のテーマを絞り込み、仮説と研究計画書を立案しプレゼンテーションを行います。後期の論文完成に向けて論文全体の構成決定までを目指します。

デジタルマーケティング専門の実務家教員との連名の指導で、学生個別のテーマに沿った企業インタビューやアンケート調査の交渉を実施しながら、一次情報を重視した卒業論文の執筆を学修していきます。

■到達目標（学修成果）

漠然としていたファッションビジネスへの興味・関心を、グループワークとディスカッションを通して、自分の研究テーマに絞り込んでいき、卒業論文の作成にあたって必要とされる基本知識を身につけます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	卒業論文を書くにあたって 年間計画や授業の進め方 最新のファッションビジネスについてのディスカッション	予習：シラバスを読む	30分
2回	4つの大分類の概説「Eコマース」	復習：各自の課題を整理してまとめる	30分
3回	4つの大分類の概説「リテールDX」	復習：各自の課題を整理してまとめる	30分
4回	4つの大分類の概説「デジタル・マーケティング」	復習：各自の課題を整理してまとめる	30分
5回	4つの大分類の概説「ファッションテック」	復習：各自の課題を整理してまとめる	30分
6回	グループ決め「中分類」の先行研究の調査、記事検索	復習：グループテーマごとに整理してまとめる	60分
7回	図書館の研修、参考文献を見つける	予習：ネット検索などの準備をする	30分
8回	過去の卒業論文の紹介、論文の書き方の習得	復習：各自の課題を整理してまとめる	30分
9回	「中分類」についての発表から「小分類」の決定 グループ・ディスカッション	復習：グループテーマごとに整理して発表準備をする	90分
10回	問題意識の決定とグループ・プレゼンテーション	復習：グループテーマごとに整理してまとめる	60分
11回	「論文」の執筆方法、調査方法（一次情報、二次情報） アンケート調査とインタビューの方法について	復習：各自の課題を整理して発表準備をする	90分
12回	卒業論文の仮説と研究計画の発表（個人プレゼンテーション）	復習：各自の課題を整理してまとめる	60分
13回	各自のインタビュー企業の調整、アンケート調査の決定	予習：最終提出課題の準備	90分
14回	「はじめに」「序章」を執筆、論文の全体像を決定する。	復習；各自の課題を整理してまとめる	60分
15回	まとめ（後期執筆にあたり夏休みの課題）	復習；各自の課題を整理してまとめる	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各自のテーマ決定までの課題提出・発表でコメントやアドバイスを提言し、卒業論文執筆までのサポートをしていきます。レポート、論文に関する提出物はすべてマナバに提出をし、教員からのフィードバックを行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	40%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

特になし

■参考文献

テーマに合わせて紹介していきます。

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・流通イノベーション実習室 第3校舎 3207教室

オフィスアワー日時については授業初日に伝えます。

■備考

図書館を積極的に使用し、活用していきます。最新のネット記事などはマナバでデータ共有していきます。

卒業論文Ⅱ（イノベーション）

五月女 由紀子・菊原 政信

4年 後期 イノベーション必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

前期の卒業論文Ⅰで設定した各自の研究テーマ・仮説に基づき、検証方法を確定して論文執筆を進めます。デジタルマーケティングの実務家教員との連携により、各自のテーマに沿った関連業界の現場担当者へのインタビューとアンケート調査に関して（一次情報）をアドバイスしていきます。論文に関する記事や文献など（二次情報）は、前期のグループで共有をしながら論文執筆を進めていきます。論文データを完成後、教員による査読と最終の論文提出をします。その後、卒業論文発表の要旨作成とプレゼンテーションを行い、大学4年間のファッションビジネスにおけるイノベーションに関する学びの集大成とします。

■到達目標（学修成果）

卒業論文の作成計画に基づき、最終原稿を完成させることにより、論文作成技術を身に付ける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。流通イノベーションコースのディプロマシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	卒業論文執筆の状況確認・発表 小分類の論文テーマの再確認	予習：夏休みの執筆状況のまとめ	90分
2回	卒業論文執筆 テーマの全体像を考える (論文の構成の再確認)	復習：各自の論文執筆	90分
3回	卒業論文執筆 「目次」章立てを完成	復習：各自の論文執筆報告の準備	120分
4回	卒業論文執筆 中間報告	復習：各自の論文執筆	90分
5回	卒業論文執筆 「1章」完成	復習：各自の論文執筆	120分
6回	卒業論文執筆 「2章」完成	復習：各自の論文執筆	120分
7回	卒業論文執筆 「3章」完成	復習：各自の論文執筆	120分
8回	卒業論文執筆 「結論」完成	復習：各自の論文執筆	120分
9回	卒業論文 第一校 完成・提出	復習：各自の課題を振り返る	30分
10回	卒業論文 教員による査読アドバイスに従って修正①	復習：各自の論文執筆	120分
11回	卒業論文 教員による査読アドバイスに従って修正②	復習：各自の論文執筆	120分
12回	卒業論文 要旨完成 発表のプレゼンテーション準備①	復習：各自の課題を振り返る	120分
13回	卒業論文発表のプレゼンテーション準備②	復習：各自の課題を準備する	120分
14回	卒業論文 最終修正版の提出	復習：各自の課題を準備する	120分
15回	まとめ：卒業論文発表に向けて (個人プレゼンテーション)	復習：各自の課題を振り返る	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

卒業論文の執筆にあたり、中分類・小分類で情報共有をしながら、個々に指導していきます。論文に関する課題は全て、manaに提出をします。教員はそこからフィードバックを行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	10%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	50%
外部評価・検定試験結果	10%

■教科書

特になし

■参考文献

各回、各自のテーマに合わせて紹介していきます。

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネス・流通イノベーション実習室 第3校舎 3207教室
オフィスアワー日時については授業初日に伝えます。

■備考

図書館を積極的に使用し、活用していきます。
最新のネット記事などはmanaでデータ共有していきます。

言語と服飾文化

北澤 茉奈・安部 智子

4年 前期又は後期 選択 (2単位 講義)

■授業の方針・概要

服飾文化に関する題材を英語で読むことにより、その知識を深めるとともに、英文で書かれた内容を素早く正確に理解するための練習をします。内容は、1940～1950年代のパリ・オートクチュール (Christian Dior と Cristobal Balenciaga) についてのアカデミックな英語 (解説文) を扱い、語学としての英語と服飾文化の両方にフォーカスします。授業は、学生それぞれの英文解釈に対するフィードバックおよび解説、服飾に関する講義の形式で進めます。英文解釈は授業内に提出し、プロジェクターに投影する形で皆に共有します。授業毎に復習テストを実施し、前回内容と関連させながら新たな範囲を読み解いていきます。

■到達目標 (学修成果)

1. 英語で書かれた文章の構造を理解し、求められた情報を素早く見つけ正確に理解することができるようになる、2. 辞書や検索の結果から得た情報を自分の言葉でまとめ発信することができるようになる、3. パリ・オートクチュールについての知識を増やす、の3点です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目 (国際関係)・選択科目です。教養選択科目 (一般・体育・国際関係) 16単位は卒業要件です。教養科目としての言語と服飾文化は、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容 (予習・復習等)	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習：シラバスを読む。復習：授業のタスクについて流れを整理する。	30-60分
2回	ディオールとバレンシアガについて アクティブ・ラーニング	予習：テキストに目を通す。復習：復習テストに備える。	30-60分
3回	ディオールの生い立ちとデザイナーとしての初期 アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
4回	バレンシアガの生い立ちとデザイナーとしての初期 アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
5回	ディオールの性格・信念・デザインへのアプローチ アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
6回	バレンシアガの性格・信念・デザインへのアプローチ アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
7回	ディオールとバレンシアガのデザイン・スピリット アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
8回	ディオールとバレンシアガの制作プロセス アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
9回	バレンシアガのカッティングと構造 アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
10回	ディオールのカッティングと構造 アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
11回	バレンシアガのフォルム アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
12回	ディオールとバレンシアガの代表的ライン アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
13回	ディオールとバレンシアガのディテール アクティブ・ラーニング	予習：事前に提示された問題について解答を準備する。復習：復習テストの準備。	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る。	30-60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る。	30-60分

■フィードバック (試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用) 方法

復習テスト、英文解釈は授業内で採点・解説を行います。まとめのテストは採点し返却を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題 (プレゼンテーション含む)	70%	復習テスト、授業内課題 (英文解釈) の提出
期末試験・課題 (プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

Claire Wilcox 編 The Golden Age of Couture: Paris and London 1947-57 (V&A Publications)より
第6章 Dior and Balenciaga: A Different Approach to the Body (pp. 138-154)

■参考文献 必要があれば指示します。

■オフィスアワー・研究室

連絡研究室：英語研究室 (研究棟3階 6034)・服飾造形研究室 (研究棟3階 6032B)
オフィスアワー：第1回目の授業で提示します。

■備考 テキストは、大型本のためコピーを用意します。

教育実習（事前事後指導を含む）

白井 勝美

4年 前期 教職課程必修 (5単位 演習・実習)

■授業の方針・概要

前半においては、「中学校・高等学校の実地教育実習」に向けての事前指導に充てる。具体的には「実地教育実習」のプロセスを知り、自ら積極的に計画を立て、予想される実践に備える。後半においては「実地教育実習」の経験を振り返る。また事後指導は「教職実践演習」に引き継がれる。

■到達目標（学修成果）

- ①「実地教育実習」に向けての準備内容を知る。
- ②「実地教育実習」の目的・活動を知るとともに「教員」としての意識向上が図れる。
- ③「教育実習報告会」へ向けての準備活動や自己評価・他者評価を通して、「教員」としての適性を知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目であるが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	①授業オリエンテーション・諸連絡 ②「教育実習」の意義	復習：「教育実習」の意義については、必ず見直し、暗唱しておくこと。	30分
2回	①ビデオ『教育実習』（公立高等学校編）視聴 ②採用試験情報	復習：授業資料を見直す。 準備：実習校への連絡を行う。	30分
3回	①ビデオ『教育実習』（公立中学校編）視聴 ②採用試験要項	復習：授業資料を見直す 準備：採用試験の出願を行なう。	30分
4回	①ビデオ視聴のつづき ②マンガで見る実習生10ヶ条 ③実習校における事前オリエンテーションについて	復習：授業資料を見直す 準備：実習校にオリエン等の確認をする	30分
5回	①『教育実習日誌』の書き方 ②「訪問分担」発表 ③教務課から書類等の指導	復習：「教育実習に臨むにあたって」の記述作業を行なう。	90分
6回	①直前指導（杉野服飾大学教育実習の心得①②） ②最終確認と最終的な質疑応答等	復習：実地教育実習に向けて最終準備を行う。	60分
7回	実習実施者以外は自宅学習（この回数分は後期に実施）	自宅待機者（学習者）は、これまでの授業資料を振り返る。実習の準備を行う。	30分
8回	実習実施者以外は自宅学習（この回数分は後期に実施）	自宅待機者（学習者）は、これまでの授業資料を振り返る。実習の準備を行う。	30分
9回	実習実施者以外は自宅学習（この回数分は後期に実施）	自宅待機者（学習者）は、これまでの授業資料を振り返る。実習の準備を行う。	30分
10回	実習実施者以外は自宅学習（この回数分は後期に実施）	自宅待機者（学習者）は、これまでの授業資料を振り返る。実習の準備を行う。	30分
11回	①実施者からの「実習」感想 ②「報告会」準備の開始	予習：教育実習関係報告書の記述と提出準備をする。	60分
12回	「報告会」準備 報告会の企画と各自の実習報告	①教育実習関係報告書の記述の継続。 ②報告会資料作成の検討を行なう。	60分
13回	「報告会」準備 係分担の決定 各自の報告書の作成	予習：報告会口頭発表の準備を行なう。	60分
14回	「報告会」準備 口頭発表他の準備 発表内容の精査と教職適正判断等	復習：報告会口頭発表の準備を行なう。	60分
15回	「報告会」準備 報告書の作成継続 今後の作業確認 「報告会」は後期に実施する	復習：後期報告会に向けての準備を継続する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

「教育実習報告会」用「資料集」を各自が作成するが、その添削を通して指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
日誌・提出課題	10%
教育実習校評価	50%
報告会準備評価	20%

■教科書

担当教員作成プリント資料を配付する。

■参考文献

授業時に指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日（11時00分～14時00分 教務課） ・研究室 教育実習研究室（研究棟4階）

■備考

- ①「実地教育実習」への要件を満たしていない場合は、「実地教育実習」は実施できず、「教育実習」の単位取得は出来ないので注意すること。②報告会の準備は、前期の授業を継続させて、後期の「教職実践演習」に引き継がれる。

教職実践演習（中等）

白井 勝美

4年 後期 教職課程必修 (2単位 演習)

■授業の方針・概要

本授業は「教員免許状取得のための教職課程完結演習」と位置付ける。

①「教育実習報告会」の準備を行う。②履修開始段階から作成した「教職課程履修カルテ（ポートフォリオ）」の整理と今後の課題をまとめる。③実習経験を踏まえて、改めて教科（「家庭」）教育法の指導法を考える。④「教員」の使命等について、教科外教育も含めて改めて考える。⑤授業全体を通して、自らの教員としての資質を考える。**授業形態は、講義だけではなく一部 Active Learning を取り入れている。**

■到達目標（学修成果）

①実地教育実習の体験のまとめが出来たか。②4年間で教育実践力を身に付けることが出来たか。③4年間で（教育及び教材等の）研究的態度を養うことが出来たか。④最終学年で自らの教員としての資質を判断することが出来たか。この4点について、自己評価を通して今後身に付けるべきことを確認する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（資料集の作成他）	予習：資料集の下書きと清書を行なう。	60分
2回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（資料集の作成他 発表準備）	予習・復習：資料集の作成を継続する。口頭発表準備を行なう。	60分
3回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（資料集の綴じ込み作業他 発表準備）	予習：資料集の完成を目指す。指定枚数の印刷を行なう。口頭発表の準備を行なう。	60分
4回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（口頭発表リハーサル）	予習・復習：口頭発表準備を行なう。	60分
5回	前期科目「教育実習」の事後指導に引き続き「教育実習報告会」に向けての指導を実施する（口頭発表リハーサル）	予習・復習：口頭発表準備を行なう。	60分
6回	「教育実習報告会」の開催	予習：個人発表準備と役割分担と仕事内容の確認を行なう。	60分
7回	外部指導者（教育委員会）特別授業①	復習：特別授業内容を振り返る	30分
8回	外部指導者（校長経験者）特別授業②	復習：特別授業内容を振り返る	30分
9回	外部指導者（弁護士）特別授業③	復習：特別授業内容を振り返る	60分
10回	各自の研究授業報告を通して、指導力の確認と改善点について意見交換を行う①	予習：担当者は資料を作成し報告の準備をする	60分
11回	各自の研究授業報告を通して、指導力の確認と改善点について意見交換を行う②	予習：担当者は資料を作成し報告の準備をする	60分
12回	「教職課程ポートフォリオ」の整理を目指す。これまでの学修について意見交換を行なう①	予習：ポートフォリオ保管物の整理	30分
13回	「教職課程ポートフォリオ」の整理を目指す。これまでの学修について意見交換を行なう②	予習：ポートフォリオ保管物の整理	30分
14回	「教職課程ポートフォリオ」の最終作業を行なう	予習：ポートフォリオ保管物の整理	30分
15回	教職課程完結演習としてのまとめ 「教職課程ポートフォリオ」を完成させる	復習：各自「教職課程ポートフォリオ」を持ち帰り保管する。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

①各自の「研究授業報告」を通して、実施者全員で内容の確認と改善点を意見交換する。
②「教職課程ポートフォリオ」への助言を行う。

■成績評価の方法・基準

教育実習報告会関連	25%
教員免許取得に向けての姿勢	25%
学習態度 他	25%
カルテ（ポートフォリオ）	25%

教員として必要な知識・技能、教員免許取得に向けての姿勢を確認する。なお、総合評価は教職委員会メンバーで最終確認する。

■教科書

担当教員が資料を作成する。

■参考文献

必要に応じて提示する。

■オフィスアワー・研究室

前期 水曜日（11時00分～14時00分） 後期 水曜日（11時00分～14時00分） いずれも教務課

研究室 研究棟4階 教育実習研究室

■備考 なし

博物館実習

落合 広倫

4年 通年 学芸員課程必修 (3単位 実習)

■授業の方針・概要

学芸員課程で習得した知識をもとに、実際の博物館実務の知識・技術の習得を目的とする。本学衣裳博物館での実務及び、学外実習旅行を行い、実際の博物館の現状を把握するとともに、学芸員としての資質向上を目指す。

■到達目標（学修成果）

博物館実務に関する知識・技術の習得

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得して学芸員になるための資格を取得する方法）のために、文部科学省令の定める大学で習得するべき博物館に関する科目の単位の一つ。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館実習の概要説明・授業計画）	予習：シラバス確認	15分
2回	グループワーク（展覧会を企画する）	予習：調査 準備	15分
3回	グループワーク（展覧会を企画する）	復習：グループワーク 振り返り	15分
4回	グループワーク（ミュージアムグッズを考える）	復習：グループワーク 振り返り	15分
5回	グループワーク（ミュージアムグッズを考える）	予習：プレゼンテーション準備	15分
6回	グループプレゼンテーション	復習：調査・研究振り返り	15分
7回	実習旅行事前調査・研究	予習：調査 準備	15分
8回	実習旅行事前調査・研究	予習：調査 準備	15分
9回	2次資料作成（拓本）	復習：実習内容 振り返り	15分
10回	2次資料作成（拓本）	復習：実習内容 振り返り	15分
11回	封入標本作成	復習：実習内容 振り返り	15分
12回	封入標本作成	復習：実習内容 振り返り	15分
13回	資料取扱（金工品）	復習：実習内容 振り返り	15分
14回	実習旅行準備	予習：調査 準備	15分
15回	実習旅行準備	予習：調査 準備	15分
16回	実習旅行報告会準備	予習：発表準備	15分
17回	実習旅行報告会準備	予習：発表準備	15分
18回	実習旅行報告会準備	予習：発表準備	15分
19回	実習旅行報告会	復習：報告会 振り返り	15分
20回	2次資料作成（裏打ち）	復習：実習内容 振り返り	15分
21回	2次資料作成（裏打ち）	復習：実習内容 振り返り	15分
22回	2次資料作成（額装）	復習：実習内容 振り返り	15分
23回	グループワーク（博物館ワークショップを考える）	予習：調査 準備	15分
24回	グループプレゼンテーション	復習：調査・研究振り返り	15分
25回	資料取扱（紙資料）	復習：実習内容 振り返り	15分
26回	資料取扱（紙資料）	復習：実習内容 振り返り	15分
27回	資料の保存方法	復習：実習内容 振り返り	15分
28回	資料の修復方法	復習：実習内容 振り返り	15分
29回	資料の梱包方法	復習：実習内容 振り返り	15分
30回	まとめ・実習室清掃	復習：振り返り（まとめ）	15分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

製作物・技術習得についての講評

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（プレゼンテーション含む）	70%
期末試験・課題（プレゼンテーション含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

随時紹介、内容に即した資料を配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室 又は 教務課（本校舎1階）

出講日：土曜日

■備考 なし

XI. ゼミナール

先生方のご好意により開講されるゼミです。
単位は出ませんが、積極的に参加して学んで下さい。

【整理番号】

【1】 白井ゼミ（教員採用試験）

白井ゼミ（教員採用試験）

白井 勝美

4年 前期 自主ゼミ （演習 単位なし）

■授業の方針・概要

教員採用試験に向けての意識づけを目標としている。具体的には、過去の教員採用試験問題（教職に関わる領域）を材料に採用試験に向け準備する。

■到達目標（学修成果）

- ①採用試験に向けてどういった準備が必要かわかる。
- ②「教職に関わる領域」についての最低の受験準備ができる。
- ③採用試験向けの「教育法規」はほぼ学習できる。（3年生の「教育法規」を受講している場合）

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者に向けてのゼミで無単位科目です。ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助なると考えている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	採用試験に関わる情報の提供	予習・復習 授業時に提供した予想問題を含め自宅学習を行うこと。	適宜
2回	予想問題の提供①	予習・復習 教育法規の復習①	適宜
3回	予想問題の提供②	予習・復習 教育法規の復習②	適宜
4回	予想問題の提供③	予習・復習 教育法規の復習③	適宜
5回	予想問題の提供④	予習・復習 教育思想家の復習①	適宜
6回	予想問題の提供⑤	予習・復習 教育思想家の復習②	適宜
7回	予想問題の提供⑥	予習・復習 学習指導要領の復習①	適宜
8回	予想問題の提供⑦	予習・復習 学習指導要領の復習②	適宜
9回	予想問題の提供⑧	予習・復習 授業時に提供した予想問題を含め自宅学習を行うこと。	適宜

★例年7月に全国の都道府県において、教育職員採用候補者試験が実施される。この試験対策の一環として大学4年生を対象に「ゼミ（勉強会）」を開催している。この「ゼミ（勉強会）」は、教員からの一方的な講義ではなく、過去の試験問題を通して、傾向対策を行っている。実施回数は教育実習訪問期間を含む為、前期9回を予定している。限られた期間の実施である。この時間を通して、試験の意識を高め、自らが勉強して行く姿勢づくりが目的となる。単位は無い。

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎時間、予想問題・過去問題について解説する。

■成績評価の方法・基準

評価しない。

■教科書

担当教員が資料を作成する。

■参考文献

適宜指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期 水曜日（11時00分～14時00分 教務課）

研究室 教育実習研究室（研究棟4階）

■備考

3年次の「教育法規」を履修していることが条件であるが、止むを得なく履修できなかった者も履修を許可する。但し、授業開始前に「教育法規」既習者から内容を確認しておくことよ。